

令和元年第16回

札幌市教育委員会会議録

令和元年第16回教育委員会会議

1 日 時 令和元年8月6日(火) 10時30分～16時08分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

教 育 長	長谷川	雅 英
委 員	阿 部	夕 子
委 員	佐 藤	淳
委 員	石 井	知 子
委 員	道 尻	豊
教育次長	檜 田	英 樹
生涯学習部長	鈴 木	和 弥
学校教育部長	相 沢	克 明
教育推進・労務担当部長	早 川	修 司
児童生徒担当部長	長谷川	正 人
教育推進課長	井 上	達 雄
学事係長	茂 木	貴 徳
学事係員	奥 山	玲 太
教育課程担当課長	佐 藤	圭 一
企画担当係長	野 田	隆 之
義務教育担当係長	山 下	敦 史
義務教育担当係長	三 浦	敦 司
義務教育担当係長	阿 部	晋 也
義務教育担当係指導主事	アルティ	み お
企画担当係長	神 林	裕 子
義務教育担当係長	高 橋	健 一
研修担当係長	牧 野	宜 英
企画担当係長	森 岡	香 子
義務教育担当係長	山 下	敦 史
企画担当係長	鈴 木	圭 一
児童生徒担当係長	道 佛	智 志
義務教育担当係長	岩 田	悟
企画担当係長	皆 川	慎太郎
義務教育担当係長	船 着	千 世

研修担当係長	高 梨	美奈子
高等学校部会長	野 元	基
高等学校担当係長	牧 野	弘 幸
高等学校担当係長	野 口	浩 史
特別支援教育部会長	三 谷	和
特別支援教育担当係長	北 原	義 之
特別支援教育担当係指導主事	工 藤	雅 文
総務課長	宮 地	宏 明
庶務係長	松 平	健 次
書 記	田 中	将 太

4 傍聴者 32名

5 議 題

協議第1号 令和2年度使用教科用図書を選定について

## 【開 会】

○長谷川教育長 これより、令和元年第16回教育委員会会議を開会いたします。

本日の会議録の署名は、石井知子委員と道尻豊委員にお願いいたします。

なお、池田官司委員より、所用により会議を欠席される旨の連絡がありました。

## 【議 事】

◎協議第1号 令和2年度使用教科用図書の選定について

○長谷川教育長 それでは、議事に入ります。

協議第1号は、令和2年度使用教科用図書の選定についてです。

本日は、これまでの2回の審議を受けまして、小学校用教科用の選定について審議を行うとともに、高等学校並びに中等教育学校後期課程用教科書、特別支援教育用教科書についても選定の候補が挙げられておりますので、審議を行います。

小学校用教科書につきましては、英語、算数、社会と地図、図画工作、音楽、理科、道徳、保健、生活、国語と書写、家庭の順に審議を進めていきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、そのように進めていきたいと思えます。

まず、本日の審議に入る前に、前回と同様に、私から委員の皆さんに確認させていただきたいことがあります。

前回の教育委員会会議終了後、本日までに皆さんには特定の組織や団体、あるいは会社等から働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたか。

(「はい」と発言する者あり)

○長谷川教育長 ただいま皆さんから影響力の行使や圧力等はなかったとの回答をいただきました。

本日の私たち5人による協議は、教科書採択の公正・中立性を確保し得るものであると判断いたします。

続いて、さらに2点の確認をさせていただきたいと思えます。

前回までの審議におきまして、小学校部会の各小委員会委員長に、特定の組織や団体、あるいは会社等から働きかけや影響力の行使、圧力等はありませんでしたかと質問いたしましたが、いずれも、ありませんとの回答でしたので、調査

研究に対する圧力等はなかったものと改めて判断させていただきます。

また、小委員会委員長などの意見につきましては、学校教育に携わる専門的な見地からの発言として参考にしてまいりましたが、本日の審議に当たりましても同様に考えてまいりたいと思います。

皆さん、この2点の確認についてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 なお、本日は、審議会委員でもある各担当の指導主事に出席を求めていますので、審議の中で必要があれば随時ご質問していただいて結構です。

それでは、小学校用教科書についての審議を始めます。

本日の審議は、前回までの審議において選定の候補としました教科書から1者を選定いたします。

これまでもそうですが、各教科書の特徴などから、札幌の子どもたち、小学生にとってどの教科書がより望ましいかという点を大切にして審議していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

それではまず、英語から審議を始めます。

7月26日の審議におきまして、英語は、東書、教出、光村の3者を選定の候補といたしましたので、この3者のうちから1者を選定いたします。

前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問等がありましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、私から、観点の整理ということで、前回の審議における小委員会委員長の報告、質疑等々の内容を私になりにもとめてみますと、英語につきましては、課題探究的な学習活動の取り扱いや子どもの意欲や興味・関心を高める工夫の観点などにおいて、各教科書の特徴や違いがあるように思いましたが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、これらの観点を中心にいたしまして、札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいかということについて、各委員からのご

意見をいただきたいと思います。

私から指名をして進めていきたいと思います。

それではまず、阿部委員からお願いいたします。

○阿部委員 最終的に残った3者の教科書をじっくり拝見させていただきまして、各者とも非常に一生懸命つくっていただいたと感じているのですが、その中で特に特徴があると感じている教科書会社は東京書籍になります。

まずは、短いやりとりの中で、子どもたちにわかりやすく伝えることができるようになっていることが一つです。

それ以外に、学習のゴールが設定されているところも課題探究的な意欲を非常に与えていただけるところではないかと思います。

それから、ほかの教科書会社と比べてもう一つ大きな特徴として感じているのは、付録本というのでしょうか、ピクチャーディクショナリーという附属的なものがついているところが非常に興味の対象になっていると感じます。

それから、サイズが非常に大きくなっていて文字も大きく、構成としても非常に見やすい部分がありましたので、そういったところから、私としては、東京書籍がよいのかなと感じているところです。

以上となります。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

次に、石井委員からお願いいたします。

○石井委員 私も阿部委員と同意見で、東京書籍の教科書がふさわしいのではないかと考えています。

話すことや聞くこと領域における課題探究的な学習活動の取り扱いについて、東京書籍は、各単元の最後に、例えば、「バースデーカードをおくろう」や「自分についてスピーチしよう」など、学習のゴールがはっきりと設定されていて、各単元で学習した自分の英語表現を巻末のカードにまとめて、ゴールに向かって子どもたちが意欲的に学習に取り組むことができる構成になっているのではないかと思います。

また、使用上の配慮としてスモールトークなどがあり、短い例文が示されていて、そのやりとりを積み重ねる構成で、児童たちが英語に対して苦手意識を持たずにコミュニケーションへの意欲を高めていくことができるのではないかと思います。

また、別冊のピクチャーディクショナリーは、子どもたちが英語での自己表現をする際に、教科書には載っていない表現を簡単に調べることができて、子ども

たちにとって、発展的な学習に非常に役立つのではないかと思います。

子どもたち自身が、自分のことなどを英語で話したくなるような仕掛けや工夫がされているのが東京書籍の教科書ではないかと私は感じました。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

次に、道尻委員からお願いいたします。

○道尻委員 私も、東京書籍がよいと思います。

教科書の中に書き込む部分がたくさん多く設けられているのと、巻末にはコミュニケーションカードなどがあり、こういったものをいろいろ用いながら自分の英語表現を振り返りつつ完成させていく工夫が施されているのではないかと感じました。

また、お二人からも出ていましたピクチャーディクショナリーという絵辞典も役に立つ教材ではないかと思いますので、その点も理由の一つとして挙げさせていただきます。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

次に、佐藤委員からお願いします。

○佐藤委員 初めての英語の教科書ということで、本当に各者さまさまざまな工夫や内容の取り組みがありまして、非常に興味深く比較してみたのですが、私も東京書籍を推したいと思います。

3人の委員の方々からはご意見がかなり出たところだと思いますが、つけ加えるとすれば、東京書籍の教科書の内容は授業の流れがイメージしやすく、実際に段階を踏んで積み上げていくところにあるやりやすさが抜きんでいたと思います。

それから、皆さんもご指摘のように、各者の巻末に単語の簡易辞書的なものがありまして、同じ分量で同じ内容の形だと思いますが、別冊になった簡易型のディクショナリーというのは非常に使いやすいのではないかと思います。

それから、前回確認しましたように、4線上に並べてあるという点も、書くという領域における学習を促していくのではないかと感じました。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

皆さんは東京書籍ということで、採択をした理由が、スモールトーク、短いや

りとりでの考えを積み重ねて、コミュニケーションに対する意欲を高めているように工夫されているということです。

また、学習のゴールとなる言語活動に向けての言語表現、巻末も含めて、一つすぐれているということから、子どもの意欲を盛り上げていく工夫もされていると、巻末のコミュニケーションカードに書きためていくことによって、それぞれに表現を積み上げていくこともできるのではないかということです。

それから、別冊のピクチャーディクショナリーについても評価が高いということでありました。

また、今ほど佐藤委員からありましたように、授業の流れをイメージしやすい、段階を踏んで積み上げてくような方法等々から東京書籍がよいのではないかということでしたけれども、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 今、皆さんからご意見いただきましたけれども、そういったことを総合的に判断いたしますと、英語につきましては、東京書籍が札幌市の子どもたちにとってよりふさわしいのかと思います。

英語については、東京書籍を選定したいと思います。

それでは、続きまして、算数についての審議を行います。

まず、算数については、7月26日の審議におきまして、東京書籍、学校図書、教育出版の3者を選定の候補としましたので、この3者から1者を選定いたします。

まず、前回の審議を踏まえまして、各委員から追加のご質問等がありましたらお願いいたします。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、こちらの観点について整理をさせていただきたいと思います。

前回の審議における小委員会委員長の報告や質疑等々を踏まえますと、算数の場合につきましては、課題探究的な学習活動の取り扱いとデータの活用領域の取り扱いについて、各教科書の特徴や違いがあると思いますけれども、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)



○長谷川教育長 それでは、このような観点を中心に札幌の子どもたちにとってどのような教科書がより望ましいかということについて、各委員からご意見を頂戴したいと思います。

それでは、石井委員からお願いいたします。

○石井委員 各者でどれがよいか迷ったのですけれども、私としては、教育出版の教科書がふさわしいのではないかと考えています。

まず、教科書の構成として、各単元の導入に、2年生以降に「どんな学習が始まるかな？」というページを位置づけて、疑問から学習が始まる構成は、児童が主体的に学びに向かうことが可能になっているのではないかと思います。

また、そういった疑問や問題提示、合点表、まとめ、そこから、ほかの条件にも当てはめられるような、新たな学習につなげられる展開になっていて、子どもたちが主体的に課題探究的な学習に取り組むことができるのではないかと思います。

それから、データ活用の冒頭の取り扱いについては、例えば、3年生だと、学校の前を通る乗り物を調べるといった導入場面から、自分の目的に応じて情報を適切に捉えることが可能な構成になっています。

また、6年生の部分でも最初の導入場面で扱うデータ量を少な目にする事で、関係や傾向を捉えやすい構成となっていて、算数にちょっとつまずいたり、苦手な子どもたちが導入しやすいのではないかと考えています。

そういった児童の発達に寄り添った内容だと感じられるので、私は教育出版がふさわしいのではないかと考えています。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

続きまして、道尻委員をお願いいたします。

○道尻委員 私は東京書籍が一步リードしていると感じました。

まず、課題探究的な学習活動の点ですけれども、吹き出しで課題を明確に示して、これが低学年を中心に効果的ではないか、論理的に考える力を育むことに役立つのではないかと考えています。

それから、図や式の使い方もわかりやすく、いろいろな考え方を理解して話し合う展開に結びつく構成がとられているのではないかと思います。

もう一つの観点であるデータの活用については、東京書籍、教育出版の二つにおいて遜色ないと感じています。

私も教育出版もよい教科書だと感じておりまして、この二つのどちらかがよいのではないかと考えていますが、先ほど言いましたような、吹き出しや図と式の

効果的な使い方という点で、一步、東京書籍を推したいと思っております。  
以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。  
佐藤委員、お願いいたします。

○佐藤委員 前回、事例から決まりや公式、まとめを導く流れが各者でどうなっているかという質問をして、お答えいただき、もう一度見直しましたところ、問題をまず把握させて、話し合いを行わせて、活動させて、まとめて、一般化につなげるという流れが各者にありました。

ただ、私は、ここの部分でやはり教育出版の教科書が一步先んじていると思いました。というのは、まとめの部分で、話し合うところとしっかりまとめるところが授業の中で必要になるのですけれども、このまとめの部分が教育出版は非常に見やすいということが一つ推す理由です。つまり、課題探究的な学習活動が他者より一步明確になっているという点が非常に特徴的だと思います。教育出版は全体的に見やすい構成になっていると思います。

それから、個別の単元ですけれども、例えば、2年生の三角形と四角形の単元ですが、通常、子どもたちは、不等辺・不等角図形を三角形とか四角形とは言わないので、そこを正三角形や正方形で説明してしまうと、範囲が広がっていきません。しかし、これについて、ほかの出版社もやっているところはありますが、教育出版は、不等辺・不等角図形を強調してそこから入っているのが非常によいと思いました。

それから、5年生の単位量当たりの大きさの割合の部分で各者を比較してみたところ、教育出版は、最近話題になっている市場での通常の割引と割り増しについて、何パーセントの割引、あるいは何パーセント割り増しで一体幾らになるかというところの演習が非常に詳しく、これも一つ推す理由になりました。

個別の単元ですけれども、そういったところを見ても、課題探究的に演習を重ねていくところで教育出版が一步すぐれていると思いました。

○長谷川教育長 ありがとうございます。  
次に、阿部委員にお願いいたします。

○阿部委員 3者を拝見させていただいて、迷うところはあったのですが、私としては学校図書がすぐれていると感じています。

特に、全体的な観点につながることで、前回のときもお話しさせていただいたのですが、教科書の目線の構成が子どもたちがつぶやきそうな、「解決し

たいな」「考えたいな」「知りたいな」という言葉が左側に集約されているところから、課題探究的な意欲を湧かせていただけるのではないかと思いました。そういうわかりやすさという観点から学校図書を推したいところです。

もう一つの理由としましては、前回も話題になったのですけれども、6年生には中学へのつながりという点から「中学へのかけ橋」という付録本を用意していただいています。枚数としては少ないかもしれませんが、中学になったら数学という形になるので、子どもたちに抵抗がないように、数学はこんなことを勉強するということを意識させてくださっていきまして、そういうところも評価の対象になっております。

ただ、皆さんからお話がありました教育出版につきましても、データの活用の領域という観点は、皆さんからお話があったように、すぐれている場面が非常に多いと感じておりますので、議論を深めながら最終的な結論を出せたらよいと思っています。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ただいま、4人の委員から教育出版、東京書籍、学校図書それぞれについて意見をいただきました。

今、阿部委員からお話がありましたように、先ほどの観点も含めてもう少し議論を深めていきたいと思っております。

3者とも非常によい教科書であることは間違いありませんので、さらに、そこで、札幌の子どもたちが使うとしたら、こんな教科書がよいのかということも含めて、皆さんから意見をお願いしたいと思っております。

ちょっと細かいところになりますが、先ほど、佐藤委員から、同じ項目について3者それぞれを比較したお話がありましたけれども、皆さんにページ数などを示していただきたいと思っております。

○佐藤委員 そうしましたら、分冊になっているのは5年生の下のところで、教育出版が一つですが、学校図書ですと104ページからです。東京書籍ですと66ページ、教育出版ですと168ページになります。

もう一回言いますが、東京書籍が66ページから、学校図書が104ページから、教育出版が168ページからが割合に関しての内容になっています。最初の導入は各者ともほぼ同じです。

先ほど、教育出版は、割引、割り増しが詳しいと申し上げましたが、それは178ページからです。

教育出版の178ページを開いていただきますと、ここから3ページにわたって、例えば、「定価4,000円の服が30%引きの値段で売られています。この服は何円

で買えるでしょうか」とあります。また、179ページにも「20%引きの値段だそうです」とあります。

それから、10番ですが、今度は増量でありまして、手芸用のテープが30%増量して売られていて、増量後は130センチですが、増量前は何センチかというように、割引、割り増しの部分が詳しく演習でフォローされています。

ほかのところでも、発展的な問題の扱いにはなっていて、1問程度のものは各者にもあるのですが、こういうふうに詳しく問題、演習という形で取り扱われているのは教育出版ということです。

先ほど、私が話題になっていると言ったことは、最近の大学生は、何割引、あるいは何割増しという問題に対してできないということです。この関係を調査したこともあるのですが、例えば、実際に、既に7割引になっている商品がさらに半額になっているという2段階の割引がよくあります。服などは、シーズンがだんだんと終わるにつれて割引がどんどん重なって行って、一体幾らになるのだという調査を専門学校や幾つかの大学でやっています。結果は、その学校にもよりますが、思っている以上にできません。

こういう基本的なことをやるのは、小学校の第5学年です。だから、ここでしっかり学ばないと、いわゆる消費生活を送るときに、一体幾らかわからないということになります。

専門学校の先生などに聞いたところ、実際に私がつくった問題を出したらできなかったということで、それでは、服などは幾らだと思って買っているのと聞くと、レジに持っていかないといけないと言っていたそうです。

そういう人ばかりではないわけですが、現状を目にしていますと、特にここが私にとっては注目の部分になっております。

割合という特定の単元の話ですが、これについては生活の中で使っていく場面がたくさんあると思いますので、基礎的な学習がもし十分ではない現状があるのであれば、そこがしっかりフォローされている教科書がよいと思いました。

○長谷川教育長 先ほど、石井委員がおっしゃった身近な例からというところが同じような意味合いになっていくのでしょうかね。

○石井委員 そうですね。データ活用の領域ですけれども、3年生は「表とぼうグラフ」、6年生は「データの見方」という単元がありますが、6年生だと最初に扱うデータの量を少なくして、段階を踏んで増やしていくところが見られます。また、3年生の「表とぼうグラフ」という単元だと、学校の前を通る乗り物を調べるという導入場面があります。たくさんの乗り物があって、どうやって調べればよいのかわからないという中で、その目的に応じて、情報を自分で適切に

選択して調べるといふ視点が教育出版の教科書に見られます。実際に子どもたちが成長していくにつれて、出てくるデータを自分たちで適切に判断して扱う力が本当に必要だと思うので、そういった視点がよいのではないかと思います。

○長谷川教育長 道尻委員はいかがですか。

○道尻委員 私は、主に教育出版と東京書籍を比較して考えているのですけれども、東京書籍のほうを少し推す形でお話をしました。

まず、子どもさんが説明して、問いかけを促して問題を示すような吹き出しのやりとりが取つきやすく、子ども同士の話し合いを促すような効果が十分にあると思いました。ただ、同様の工夫は教育出版にも見られまして、吹き出しの使い方と同じ部分が少しあります。

ほかの皆さんも同様に課題探究的な特徴に目を向けられて、教育出版がすぐれているのではないかというお考えの方もいらっしゃると思いますが、そこは個人的な面に影響されているところがあると思いますので、受けとめ方の違いなのだろうと思います。

この2者につきましては、そんなに大きな違いは感じておりませんので、多数決がそちらのほうであれば、そちらのほうが妥当なのかという考えもあります。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

阿部委員はいかがでしょう。

○阿部委員 佐藤委員の値引きのお話をお聞きして、私自身にも、周りに計算ができない大学生がいた経験が一度あったので、佐藤委員の意見にすごく賛成する部分を感じました。

最初にお話しさせていただきました学校図書について、教育出版と比較したときにもものすごく劣っているかということ、そういうことではないかと思います。

ただ、例題の見方として、教育出版のほうは、子どもたちがよく行くスーパーや洋服屋さんなど、身近なところをデータとして扱っていただいております。これについては石井委員からもお話があったように、身近という意味においては教育出版のほうがまさっている部分があるという印象を持っております。

それから、最初にお話しさせていただきました学校図書の6年生のときに、中学校に上がったときのことを少し意識させるというところは、教育出版には設けられていなかった部分でした。ですから、最終的に教育出版になったときは学校の先生たちに少し頑張ってもらいたいと思います。

ただ、中学に進学したらどのようなことをするのかということを経験的に教え

過ぎるとプレッシャーになるかもしれないので、そこを感じてくださるなら、私自身、学校図書さんと教育出版の2者で迷っておりましたので、最終的な判断として教育出版でもよいかと思っています。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

この3者を見ていただきまして、道尻委員は東京書籍ということで、阿部委員は学校図書と教育出版ということであります。

委員の方々がおっしゃるように、すごくよいところがたくさんありまして、選定がなかなか難しいところでもあります。東京書籍の吹き出しの部分は、低学年に非常にわかりやすい工夫がされています。また、学校図書には「中学へのかけ橋」という別冊がありますが、私もああいう工夫はすごくよいと思っていました。

全体を押しなべてみると、やはり教育出版が札幌の子どもたちに一番合っているのではという皆さんからのご意見であったと思いますけれども、そのほかにご意見はありますか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 中身につきましては、皆さんからいろいろとお話をいただいているように、どんな学習が始まるかという導入からまとめの部分まで、非常に主体的に課題探究的な学習に取り組めるよう構成されているという意見がありました。それから、低学年の子どもたちにもわかるように、身近なところから算数的な問題について導入されていくというような仕組みも非常によいということで、算数について総合的に判断いたしますと教育出版の教科書がふさわしいのではないかとということで、よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、算数につきましては、教育出版を選定することといたします。

次に、社会と地図について、あわせて審議を行います。

7月26日の審議におきまして、社会につきましては対象となる東書、教出、日文についての3者を、地図についても対象となる東書、帝国の2者を選定の候補といたしましたので、それぞれその中から1者ずつ選定したいと思います。

まず、前回の審議を踏まえまして、各委員から追加でご質問等がありましたらお願いいたします。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、これについても、私から簡単に整理させていただきたいと思います。

前回の小委員会委員長の報告、質疑応答等をまとめてみますと、社会につきましては、課題探究的な学習活動の取り扱いや教科書の中の資料の取り扱いの観点などにおいて、各教科書の特徴や違いがあったように思います。

また、地図につきましては、地域社会の社会的ビジョンに関する取り扱い、それから、地図を始めて使用する3年生にとっての使いやすさの観点において、二つの教科書において違いがあったように思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、今申し上げた観点を中心に、札幌の子どもたち、小学生にとってどの教科書がより望ましいかという点について、各委員からのご意見をいただきたいと思います。

まず、道庁委員からお願いいたします。

○道庁委員 まず、教科書ですけれども、結論からすると、東京書籍がふさわしいのではないかと考えております。

イラストなどがわかりやすいという点があるのと、記入する欄も豊富に設けられていて、学んだ内容を振り返りながら身につけていくことができる工夫がされているのではないかと思います。

一方で、教育出版のほうも非常にわかりやすい文章で、子どもさんの質問などを取り入れる形で問題点をわかりやすく示してしまして、遜色が余りなく、優劣をつけがたい教科書だと感じました。

さらに、自分の関心のあるところでもう少し比較してみまして、最近問題になったインターネット等の情報問題で、社会生活上どのように取り扱うかとか、注意するかというところなどを見ていました。それについては東京書籍のほうの方がわかりやすく、そういった課題をつかんでいろいろ調べたり、しっかり把握する構成の仕方、流れのまとめ方が課題探究的な学習につながるのではないかと思います。

それから、地図につきましては、帝国書院がよいのではないかと思います。

東京書籍と帝国書院の大きな違いはデータ量だと感じています。3年生から使っていく資料として、小学校における地図は帝国書院のほうが適切ではない

かと思えます。

どちらも北海道に関する事象の記載はされているのですけれども、その分量や内容を比較したときに、地域への関心がより促されるところが帝国書院のほうに多くあると思いました。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

佐藤委員、お願いします。

○佐藤委員 札幌市においては、観点のB-2-1に挙げられている課題探究的な学習を促進するということが大きなテーマです。

これに沿って見ていきますと、東書と教出の2者がやはり流れや発問において工夫があります。例えば、東書ですと「つかむ」「調べる」「まとめる」という流れが各単元にあります。また、教育出版のほうには「この時間の問い」や「次につなげよう」とコーナーがあり、これらは非常にすぐれていて、どちらも課題探究的な学習に向いている教科書だと思って非常に悩みました。

決め手としては、先ほども他教科で触れましたが、「まとめる」というところでいろいろな問題を把握して、話し合いをしたり、自分で調べる活動を通して、最終的に何を得られて、何が自分の知識として新たにつけ加えられたのかということをはっきりさせることが課題探究的な学習に必要なだと思っています。

両者にはそうしたところがあるのですけれども、具体的に強調されているのが東書だと思います。つまり、調べてわかったことをノートに具体的に記述する欄が設けられているという点において、最後のまとめで一步使いやすいかと思いました。

それから、地図も非常に悩みました。

東京書籍の特徴は、巻末にいろいろとまとめられているデータが非常に興味深く、私自身が使うのであれば東京書籍かと思いました。けれども、先ほど道尻委員がおっしゃったように、帝国書院のほうは、日本や世界の地図の部分が精選されて、それが簡略化されている形になっていて、3年生の児童でもわかりやすくなっています。情報量は東京書籍より下げているですが、それはもしかすると、小学生用の地図として意図的に見やすくしているのかと思います。それから、「地図マスターへの道」という単元がたくさんありまして、小学生の段階から地図に親しませる工夫があると思いました。

それから、北海道地方のことが多数掲載されているということも一つの魅力だと思ひまして、小学校の3学年から使わせるということを考えると、私もやはり帝国書院かと思ひます。



○長谷川教育長 ありがとうございます。

次に、阿部委員、お願いします。

○阿部委員 教科書のほうからですけれども、私も佐藤委員と同じで、東京書籍と教育出版の2者で非常に迷いましたが、最終的には教育出版を推したいところです。

何がポイントになっているかというと、教育出版には「次につなげよう」というコーナーがありまして、これは東京書籍にはありません。また、単元などのまとめ方についても、両者とも非常に上手にまとめていただいているのですけれども、次につなげていくことの大切さが課題探究にもつながって、子どもたちにわくわく感を持ってほしいというところが一つの決め手になっています。

東京書籍もすごくよいのですが、私の中で、子どもたちの大きなプレッシャーにならないかと思う点があります。それは「調べる」ことがすごく強調されていることで、もちろん調べていかなければいけないのですが、毎回教科書で調べなくてはいけないのかと考えてしまいます。決してそういうことではないにしても、この教科書から調べることのプレッシャーや圧迫感のようなものをすごく感じてしまいました。そこを考えたときに、教育出版の次につなげていくということのポジティブ感を推していきたいというところで、教育出版を最終的な選考にしたいと感じております。

それから、地図のほうは余り迷いませんでした。帝国書院を推したいと思います。

まずは、道尻委員からもお話しがありましたように、データ量の扱いが圧倒的に帝国書院のほうが多いということがあります。それから、佐藤委員からもお話しがありました、「地図マスターへの道」という単元がある点です。

地図に苦手意識を持っているお子さんは結構多いと思いますけれども、それを低学年の三年生から扱うということで、117ページに「地図マスターへの道」というまとめの塗り潰しをすることがありますが、これは子どもたちにとってゲーム感覚で、苦手意識をここで克服できるような工夫が施されている感じがします。そういった意味も含めて、帝国書院がよいと思っています。

○長谷川教育長 次に、石井委員にお願いいたします。

○石井委員 私も東京書籍と帝国書院の教科書で非常に悩んだのですけれども、最終的に教育出版がふさわしいのではないかと思います。

課題探究的な学習について、先ほど阿部委員もおっしゃっていたのですが、全てのページに「この時間の問い」が載っていて、さらに「次につなげよう」という問いで、連続性や発展性を重視している姿勢がよいのではないかと思います。

私は、観点Bの「共に生きる喜びを実感できる学習活動の推進」というところも大事にしてほしいという思いがありまして、比較したときに、東京書籍も教育出版もアイヌ民族について触れてはいるのですが、特に教育出版は、アイヌ民族の文化や言葉だけではなく、自然に対する考え方や伝統などを伝えていく姿があります。それから、アイヌ民族の心のあり方まで触れていて、その観点でもともに生きていく喜びというところでよいと思いました。

また、領土問題についても、教育出版のほうは、根室の水産業に触れていて、違う面から領土問題を考えるという多角的な理解を進めていける構成になっているのではないかと思います。

それから、地図のほうは皆さんと同意見で、帝国書院さんがふさわしいのではないかと思います。広く見渡す地図というのは、地図を見始めた3年生や4年生などが見やすいと思いますし、「地図マスターへの道」でゲーム感覚で抵抗感なく地図を読んで学習を進めていくことは、子どもたちにとって非常に楽しく学べるのではないかと思います。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

社会の教科書について、今いただいたご意見では東京書籍と教育出版に分かれています。いろいろご意見をいただいたのですが、観点にある教科書の中の資料の取り扱いについても両教科書には結構な違いがあるのではないかと思います。この辺で各委員のご意見等をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

教出、東書については、皆さんが悩んだ上で、本当にどちらかとなったのですが、もう少し観点を加えるとよいのかなと思います。

○佐藤委員 資料の取り扱いについて、東書、教出の2者に絞って、もう一度、指導主事の先生から研究の内容をご説明いただければと思います。

○長谷川教育長 よろしいでしょうか。

○牧野研修担当係長 まず、東書から説明をさせていただきます。

3年生の教科書の124ページと125ページをご覧ください。

東京書籍は、生活の変化を3枚の写真をもとに子どもたちに考えさせる内容

となっております。このように、多くの資料をもとに生活の変化の推移を読み取ることが可能な内容となっております。

一方、同じ単元の教育出版ですが、3年生の140ページをご覧ください。

教育出版の同様の単元では、2枚の写真の比較をもって生活の変化を読み取る内容となっております。

東京書籍は3枚ということで、どのようにというような生活の推移、変化の推移で、教育出版においては、2枚を比較することによって、なぜこのような変化が起こったのだろうという学習が可能な内容となっております。

以上です。

○長谷川教育長 ほかには何かありませんか。

この間も今のご説明をいただいたのですけれども、ほかの資料の取り扱いで特徴的なものはありませんでしたか。

○牧野研修担当係長 東京書籍、6年生の政治・国際編の34ページをご覧ください。

子育て支援について、東京書籍においては、身近な児童センターを取り上げて、子どもたちが興味・関心を高めて学習を進めていけるような構成になっております。

一方、同じ単元の教育出版の教科書は32ページになります。

昔の写真と今の写真のような資料の比較から、現代社会における問題についていく構成となっております。

以上です。

○阿部委員 今のお話の観点としては、データの取り扱いに関して、例えば、東京書籍は写真の点数が教育出版よりも多いけれども、サイズ感としては、教育出版のほうが少ない分コンパクトになっているということです。

このような比較をするときに、今のご説明だと、3点です、2点ですということだけだったので、点数の違いなどが子どもたちにとってどのような影響があって、効果につながるかというところをご説明いただくとありがたいと思います。

○牧野研修担当係長 資料については東京書籍のほうが多いと考えられます。そう思ったときに、先ほどの3年生の単元のところで説明させていただきますと、3枚の写真ということで情報量が多いので、どのように変化したのかをしっかりと捉えることが可能になっております。

一方、3枚の写真になっていることで、3年生の子どもにとっては比較しやすい構成となっております。

○佐藤委員 私が東書と教出で悩んだもう一つの点は、東書のほうがどちらかというと、課題解決の流れとして、具体的な事例を生かしているというか、最後にまとめるまで密着して全体を構成しているところがあると思うのです。

それに対して、教出のほうは、どちらかというと事例から一般化して、それが抽象化されてまとめられているところがありまして、そこが両者の違いなのかと思いました。

それぞれ使った事例に最後までつき合っ、そこでまとめるということもよいし、事例を出して、それを一般的な形にまとめ上げていくといたしますか、機能的に収れんさせていくこともよいということで両者を考えたときに、どちらもあり得ると思います。が、小学校段階の社会科としては、具体的な、身近な事例を最後までまとめていったほうが進めやすいと思ひまして、東書を選択しました。

○道尻委員 先ほどご説明いただいた明石駅についてですが、違う写真を見せて移り変わりを考えるということで、そのわかりやすさから言うと東京書籍のほうですぐれているという印象を持ちました。

ほかのところでは、先ほど6年生の社会生活上の問題について、老後などの取り上げ方のお話がありました。同じ単元ではありますが、それぞれの教科書で取り上げている観点が少し違っているので、単純に比較はできないのですが、問題をうまく気づかせてから考えさせて、そこで必要な場面については自分で調べることもしっかり加えています。こういったところは、東京書籍のほうは多少優位といたしますか、工夫がすぐれているのではないかと思います。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

石井委員はいかがですか。

○石井委員 私も東京書籍と教育出版で非常に迷って、東京書籍はまとめるという部分で、「つかむ」「調べる」「まとめる」という流れが非常にわかりやすいと思ひています。また、写真もあるので、子どもたちにとって教科書的には見やすいと思ひます。

ただ、東京書籍で、一つの曖昧な表現が気になっています。きょうは原爆投下の日だからということもあつたのですけれども、6年生の教科書で、教育出版は213ページで、東京書籍は、歴史編の139ページですが、原子爆弾の投下について、東京書籍は、「一瞬にして何万人もの命が奪われ」と書いてありまして、教

育出版のほうは、「30万人以上の命が」と書かれています。きょうは原爆投下の日でもあったので、このような若干曖昧な表現が気になっていました。もしかすると、そういう曖昧な表現がほかにもあるのではないかという危惧がありまして、恐らくないと思いますが、そこがちょっと気になっていた部分がありました。

○長谷川教育長 石井委員がおっしゃることは、確かに私も気になって、今残っている教科書以外で原爆の関係の被害の状況を見てみたところ、時点がそれぞれで変わっています。ですから、正確にどの時点で何万人というところは、どの教科書も扱いが違って、確かに悩ましいところがあります。

東京書籍の前のページに、「東京空襲の大ニュース」ということでインパクトのあるイラストがついていますが、これによって子どもたちに戦争の悲惨さが伝わると思いました。

それから、先ほど来お話になっている140ページの「まとめる」というところ です。これは、戦争が人々に与えた影響について考えてみるというのですが、こういったことで子どもたちにいろいろと考えさせることはとても大事なことという気はしました。

まさにきょうは広島に原爆が投下された日ということで、石井委員からもお話がありましたけれども、その部分については、もうちょっと書きようがあるという気がしますので、逆に、先生方からもフォローしていただければと思います。

阿部委員はいかがでしょう。

○阿部委員 先ほど、データの資料の取り扱いということでお話をいただきまして、両者の比較などもしていただきましたが、私の考えとしては、例えば、東京書籍の124ページのように、三つの写真で比較して、土地の移り変わりを子どもたちにわかりやすくお伝えしていただいていることだけは非常に評価できると思います。

しかし、データ量の多さだけを評価のポイントにするということにおいては若干の違和感がありまして、多いことが必ずしもよいということにはならないと考えます。そうすると、データ量については、確かに東京書籍のほうが多いのかもしれませんが、教育出版の「次につなげよう」というところは課題探究につながっていきますし、そちらとの連携性という部分においては、やはり教育出版のほうがすぐれているのではないかという印象が拭えないところでもあります。

皆さんの意見を聞きながら、最終的にどちらの教科書がよいかと判断できるという印象を持っています。なかなか決められない部分で、皆さんの意見を聞きながらも、では東京書籍ですねとはまだ言えない部分があります。先ほどの石井委

員の意見も、すごく細かいところまでご覧になっていらっしゃるようですので、私もまだ決められません。

○石井委員 私が教育出版にしたいというのは、先ほど阿部委員もおっしゃっていたのですが、社会に対する前向きな姿勢が感じられるからです。

「次につなげよう」もそうですが、領土問題に関して、よりよい関係を築いていきたいと考えていることをしっかり記載してくれていて、北海道の地に住んでいる私たちにとっては、そういう前向きな視点を持つとよいのではないかと思います。その点が教育出版にしたい理由です。

○阿部委員 そこが両者の大きな違いだと思います。

○佐藤委員 先ほど来話題になっている「まとめる」というところが両者がありますが、この内容について、例えば、両者の違いということで委員会で何かご意見がありましたら伺いたいと思います。

○牧野研修担当係長 小委員会の中でも話題にはなったのですが、結論から申し上げますと、両者に大きな差はないと考えます。両者とも、まとめるときに、このキーワードを使ってまとめていきたいと思いますということが約束されておりますので、課題探究的な学習を行う上で大きな差はないと考えます。

○佐藤委員 ありがとうございます。

先ほどの阿部委員の「調べる」という部分がプレッシャーになるのではないかというご意見がありましたが、私もなるほどと思いました。調べる、調べる、調べるときいて、確かに「調べる」には左側に発問があり、右側には児童の顔がありまして、ここに答えがあるのか、あるいはヒントがあるような情報提示の仕方ですけれども、「調べる」については、委員会で話題になりましたか。

○牧野研修担当係長 まず、「つかむ」「調べる」「まとめる」と位置づけて段階を踏みまして、その単元で身につけるべき知識が身につけさせやすい構成になっているという話になりました。

また、子どもたちの会話ですが、答えのようにも見えるのですが、教師が教科書を使う上でこのような発言を引き出すためには、どうしたらよいのか、また、この発言を引き出したら、次に深めるためにどのような切り返しを教師が発問していけばよいのかという使い方を、札幌市も先生方にしていきたいと考えております。

また、この後に作成していきます手引などにもそのような活用の方法を載せていければと考えております。

○阿部委員 1点お伺いしたいのですけれども、私の中で、先ほどからお話しさせていただいている「調べる」ということ自体、社会の教科においては重要なポイントではあると思うのですが、重要なポイントだとはいえ、社会において調べることの重要性はどの辺の立ち位置ですか。

○牧野研修担当係長 子どもたちが発言するときの根拠となるのは、やはり自分たちが調べてきたものが根拠となりますので、確かな見方、考え方を育てていくためには、しっかりとした調査活動が必要と考えます。

○阿部委員 「調べる」という言葉自体が、本当の意味での何もないゼロから自分で資料やデータを取り扱って調べていく「調べる」という言葉ではなく、まずは、きょうの単元はこれですという意味合いの「調べる」という意味だとは思いますが。しかし、ページをめくればめくるほど「調べる」「調べる」「調べる」と入っているのです。先生が授業をするときに、きょうはこのページを勉強しますと子どもたちに言いますが、子どもたちは、社会は何をするのだろうと事前に教科書を見ていると思います。そのときに、「調べる」という言葉が目飛び込んでくることで、子どもたちが社会嫌いにならないかとか、プレッシャーを与えてしまうのではないかと思います。

本当の意味で「調べる」というのは、このセクションでは、こういうことを調べるのですという取り扱いだと大人として理解できるのですが、それが子どもたちにとって、どういうプレッシャーになるのかと考えてしまいます。

石井委員からもお話がありましたが、教育出版のように、この社会で学んだことをどういうふうにつなげていくかということを考えていくことのほうが、札幌の子どもたちにとってよいのではないかと思います。どうしてもそこにつながってしまうといいますか、そこがそんなにプレッシャーにならずに、社会の教科書にできるというお話であればよいのかと思うのですけれども、私はそこだけがどうしても気になるところです。

○長谷川教育長 今、阿部委員がおっしゃっていたように「調べる」は、教育出版の「この時間の問い」というところが同じ意味あいですね。

○阿部委員 はい、同じです。

○長谷川教育長 それから、文字としての「調べる」というものが目に飛び込んできたときの子どもたちの受けとめがどうかというところですね。

○阿部委員 全部のページとは言わないのですけれども、めくるとほぼほぼ載っているのに、プレッシャーを感じるのではないかと思いました。

○石井委員 教育出版は調べるというよりも、やってみようという問いかけが、子どもたちにとっては、非常にやわらかく感じて、やってみようかと思えるのではないかと思います。

○道尻委員 教師さんたちの受けとめとして、「調べる」という言葉が出てきたときに、今出ていたような懸念があるのでしょうか。

授業の中で解決していく、本や何かで調べなければならない、あるいは、誰かに話を聞かなければならないことというのは、授業の一環として方法も含めてやっていくとは思いますが、今言った心配のようなところは、先生方の目から見ていかがでしょうか。

○牧野研修担当係長 まず、現場の声として、「調べる」という言葉がたくさんあるので、使いづらいということは聞いたことがありません。

また、まさに札幌市が行っている課題探究的な学習においては、ただ調べましようではなくて、子どもたちがどうやったら調べたくなるのかという工夫をそれぞれのケースで行っていただいていると考えております。

また、教育出版の「この時間の問い」も同じように、どうやったら子どもたちがその問いを考えたくなるのかということを経験探究的な学習の視点で授業を行っていると考えております。

○長谷川教育長 先ほど、資料の取り扱いで、数が多いからよいわけではないというお話がありましたが、それは当然だと思います。

選んだ資料、ここの単元でこういった資料を私どもとして使うというところで、では、教出と東書は同じ単元の中で資料の取り扱いが違うのか、特徴的なところは何かありますか。

例えば、戦争のところ、似たような写真はありますが、同じ写真はなかなかありません。いろいろな方からのお話を聞いたことなどを載せているのですけれども、そういったところで特徴的なものを出すといいますか、子どもたちの理解がより進められるものは何かありますか。



○**牧野研修担当係長** 例えば、3年生の東京書籍の20ページと21ページをご覧ください。

自分たちが住んでいる市の様子を学ぶ単元になっているのですが、東京書籍は、このように、地図と複数の写真を関連づけて子どもたちが学んでいく構成となっております。

一方、3年生の教育出版の32ページと33ページをご覧ください。

教育出版は、写真と地図の2枚を比較して学習を進める構成となっております。このような違いがあります。

東京書籍においては、地図の中に、それぞれ自分たちの生活を写真にしたものをプロットして学んでいく内容となっております。一方、教育出版においては、地図と写真を比較することによって、土地の使われ方などがわかる構成となっております。

○**阿部委員** 今のページを比較したときのことでお伺いしたいのですが、教育出版には、登場人物がいらっしゃって、その方がまとめた手描きのイラストタッチということで、緑の多いところをまとめた子どもの目線のものがあると思うのですが、同様に、東京書籍のほうではそういうページはあるのでしょうか。

○**牧野研修担当係長** 同様に、まとめのところで、子どもの手描きのものが例示されております。東京書籍の31ページになります。

資料の取り扱いとして特徴があるところについて、東京書籍の6年生の政治・国際編の66ページをご覧ください。

東京書籍は、子どもたちの周りにある身近なものを取り上げて、子どもたちの興味・関心を高めて学びを進めていく構成となっております。

一方、教育出版の6年生の同じ単元ですが、234ページをご覧ください。

同じ単元の導入のページになりますが、教育出版は、グラフの比較からこの単元の問いを生むような構成となっております。

○**佐藤委員** 大きくくりなまとめになるかもしれませんが、教育出版は、どちらかというと、どの単元についても体系的というか、一般化、抽象化というのが筋道を立ててなされるような感じで並べてあります。それに対して、東京書籍は、資料が豊富で、それを総和して載せていて、つまり情報量が多いのです。その上で、発問の内容は、どちらかというと自由度が高いものが多いような気がします。

そういう観点から、例えば、札幌市が目指している課題探究的な学習という

ころにつなげていくとすれば、各時間の授業の進めやすさという点で、まずは、先生方がどちらを使いやすいかということと、子どもたちが見たときに、どちらが受け入れられやすいかといったところで比較する部分です。課題探究的なところはどちらもということになると思うのですけれども、どういった長短があるかということだと思います。端的に言うと、東京書籍のほうは、情報量が多くて総和的で、自由度が高いと思います。教育出版のほうは、どちらかというところ非常に体系立っているという形になっていると思います。そういう長所があると思います。

そういう観点から、授業の中での使い勝手という面ではいかがでしょうか。

○**牧野研修担当係長** 今お話がありましたように、両者によいところがありますので、どちらの教科書になっても課題探究的な学習は可能と考えております。

4年生の災害のところの単元で比較してみますと、東京書籍の4年生の78ページをご覧ください。

地震について考えていく学習ですが、東京書籍は、地震の恐ろしさを捉えるために、まず、私たちの生活というところで身近なところに視点を移して、子どもたちの興味・関心を高める構成になっております。

学習を進めまして、まとめのところで避難所シミュレーションを行うというように、子どもたちがさまざまに考える活動が構成されております。これは、東京書籍の4年生の94ページとなっております。

一方、教育出版においては、4年生の84ページをご覧ください。

地震の怖さを捉えた教育出版は、市役所の働きに視点を移します。まとめは98ページですが、自分たちにできることは何だろうという学習の最後のまとめとなっております。

○**佐藤委員** 先日、視察した授業ですね。

○**長谷川教育長** 先ほど説明していただいた世界の中の日本というところで、かなり特徴的な書きぶりのところがありました。

東京書籍のほうは、例えば、そこに住んでいる人の発言や、それぞれの子どもたちの一日をまとめたものなどがちりばめられています。逆に、文章的なページは少なくなっています。

一方、教育出版のほうは、本当に教科書的な感じで、6年生の政治・国際の70ページとか230ページですね。

ただ、そのときに、子どもたちが実際に興味・関心を持って、自分で読んで、調べて、つかんで、まとめるというところは東京書籍にも出てきますが、子ども

たちにとってはそれぞれでしょうけれども、5・6年生の後半になってくると、東京書籍のこういった書き方でも、先生方は全然問題なく、教えたり、逆に、みずから読むようになるのではないのでしょうか。

言い方が難しいのですけれども、先ほど佐藤委員がおっしゃったように、東京書籍のほうが情報が多いのです。しかし、全部となると逆に消化できない部分があるという思いもありますし、でも、読みたい子は読むかとも思うのですが、その構成についてはいかがですか。

**○牧野研修担当係長** まず、東京書籍の71ページです。日本とつながりの深い国を学ぶ单元ですが、アメリカについて記述されています。

まず、文章量は東京書籍のほうが多く、アメリカの中にいる人種や民族の問題についても取り扱っているところに一つ特徴があると思います。子どもたちが調べていく上で、6年生であれば十分活用できる内容ではないかと思います。

一方、同様の教育出版のアメリカのページは、これもメジャーリーガーの写真やハンバーガーなどの絵が載っておりまして、子どもたちの身近なところで調べたいという意欲を高める工夫をされているのが教育出版の特徴ではないかと考えます。

**○石井委員** 東京書籍のほうに心がかなり動いてきています。

資料の数が多いということで、資料集も兼ねているということと、先ほど佐藤委員がおっしゃっていた自由度が高いというところで、「調べる」とは書いていますが、子どもたちが教科書に目を投じたときに、資料などや文章を読んで、興味や関心を持つ範囲が広がるという点で、東京書籍がよいかと思ってきました。

**○長谷川教育長** 今のところは、紙面構成が特徴的なページだと思います。

**○佐藤委員** 教育長がおっしゃるとおり、両者の特徴を如実にあらわれているような気がします。

**○阿部委員** 難しいですね。

どちらかという、データ量が多いことが子どもたちにとって必ずしもプラスになるとは思えません。もちろん、データの活用の仕方として、いろいろな情報を提供することで子どもたちの探究心を生むという意味では、データ量は重要なポイントだろうと思います。しかし、低学年のお子さんたちにとっては、データの量が多いことで混乱を招くことにならないかと先ほどからすごく思っていま

す。初めにご紹介いただいた3年生の東京書籍が20ページと21ページで、教育出版は32ページと33ページですが、両者を何度も見比べても、東京書籍の、左側の四つの写真と右側のマップが私の中ではどうしても一致しません。子どもたちにこれをどう一致させるのかと思ったときに、データ量イコールわかりやすさには必ずしもつながらないのではないかと思いました。

でも、6年生くらいになると、データの量はすごく重要なポイントになってくると思うので、学年によって得られたらすごくよいのにといいながら読むのですが、そのあたりについては、教育長が先ほどからおっしゃっているデータの取り扱いが最終的な決め手になると感じています。

ただ、何度も復唱するのですが、データの量イコール取り扱いの量が多ければ多いほどよいとは思えない部分がありますので、そのデータの扱いの仕方として、量イコールよいという考え方にはならないと思います。

扱い方が子どもたちにとってどんな影響を及ぼすかということ、混乱を招かない扱い方をしてくださればよいのですけれども、私には、量が多過ぎて混乱を招いている印象のほうが強いのです。

教育出版は、佐藤委員もおっしゃっていたように、身近な題材を取り扱っているところで体系的に学べるところにもつながっていきますし、先ほどの震災のところでも、市役所に行ってみようなど、子どもたちが行動に移しやすい行動教育にもつながっていると思いました。そういった意味で、今のところ、私はまだ教育出版のほうを思っています。

○長谷川教育長 災害の関係については、先ほどお話がありましたように、東京書籍のほうは、まず、自分のところで災害が起きたときにどうしようかというところから行政につながっていると思います。逆に、教育出版は、まず、市の災害の対策というところから始まって、自助行動と。子どもたちにとって、どちらの流れがよいのかというところですね。

○道尻委員 写真やイラスト等々をうまく使っていて、わかりやすいのは東京書籍ではないかという印象を持っています。これは、言われるとおり、人によって捉え方が違うと思うので、そこは議論して乗り越えられたらと思います。

○阿部委員 そうですね。どちらもよいところがたくさんあって、余計に議論が深まっているということで、甲乙つけがたいところからきているので、非常に難しいと思います。

○佐藤委員 両者は非常に高いレベルで、よい教科書だと思います。このように

議論すると、それぞれの長短が出てくる気がして、やればやるほど両方がよくなります。ここで委員の間は2対2なので教育長の・・・。

○長谷川教育長 石井委員から東京書籍のほうに少し傾きつつあるというご発言がありましたが、いかがですか。

○石井委員 自由度という面で、子どもたちが社会を学ぶ上で、広い意味で関心を持たせてあげるという点で東京書籍は、よいというふうに今思っています。

けれども、教育出版のほうは、ポイントをつなげるという連続性みたいなものははっきりしているので、学びやすいのは教育出版かと思っています。ただ、子どもたちに、社会に対して広い視野で目を向けさせてあげるという点では、東京書籍のほうがもしかすると将来につながる点があるのかなと今は思っています。

○長谷川教育長 私は、本当に両者とも甲乙つけがたい教科書であるのは間違いないと思います。ただ、佐藤委員がおっしゃったまとめるというところですね。あの教科書のページには、確かに「調べる」がやたらと出てきて、若干閉口してしまうところがあるかもしれませんが、それを通り越して自分たちがそれまで学んできたことをきちんと整理できる仕組みや工夫はよいというのが私の率直な感想です。

ただ、先ほど来話が出されているように、情報量が何分多いということがあります。その分、いろいろなことを知ろうと思えば知ることができるのですが、情報量が多いので、全部が全部はできません。ですから、教える先生方の工夫、仕組みも必要かと思っていますし、それらは教育委員会のほうで、もし東京書籍になった場合はそこも十分配慮した上で手引き等を作らなくてはいけないのかと思います。逆に、東書になると、その辺は大変になるところが出てくるかもしれませんが、その自由度、範囲、まとめるという自分の頭の中でまとめる整理、課題探究というところを改めて考えると、東書のほうが少しだけよいのかという気はしています。

○阿部委員 教育長がおっしゃったように、東京書籍だった場合に、私自身が感じた疑問点を皆さんと共有しながら、プレッシャーを与えずに「調べる」という言葉が自分独自で調べていかなければいけないという立ち位置になるので、まず、このセクションでの目当てはこれですという立ち位置と、データの扱い方として、量が多いイコールそれが必ずしもよいとは限らないので、量の多さが子どもたちにとって混乱を招かないように、資料の取り扱いをしていただくということにおいて、どちらも非常によいので、どちらが選ばれたとしても、そんなに大

きな差があるわけではないと思うのですが、東京書籍が選ばれたときには、そのあたりに配慮していただけるとよいと感じております。

○長谷川教育長 それでは、まとめていきたいと思いますが、この場では、東京書籍ということにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、いろいろな議論があったところですが、社会につきましては東京書籍、地図については帝国書院ということで、この二つを選定することとしてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、そのようにさせていただきます。

ここで、休憩に入りたいと思います。

再開は13時15分を予定します。

[ 休 憩 ]

○長谷川教育長 審議を再開いたします。

次は、図画工作について審議を行います。

図画工作につきましては、7月24日の審議におきまして、対象となる開隆堂、日文の2者を選定の候補をいたしましたので、この2者のうちから1者を選定いたします。

まず、前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問等がございましたらお願いいたします。

○阿部委員 改めてお伺いしたかったのですが、図画工作につきましては、評価の違いとして表現や鑑賞というところが観点の一つに上がっていたと思うのですが、それぞれの教科書会社の特徴がありましたら、改めて教えていただければと思っています。

○森岡企画担当係長 表現につきましては、鑑賞におきましても、開隆堂のほうが材料とか提示されている作品の数が絞られています。その中で、ある意味、深く探究していくというような内容になっているかと思います。

日文につきましては、こちらの鑑賞も表現もどちらの領域もですけれども、使う材料とか物の見方なども子どもが自由に発想を膨らませて、自分で課題を見つけられるような、少し幅を広く持たせているなという印象があります。

特に3・4年生まではさほど差はないと思うのですけれども、5・6年生の高学年につきましては、今申し上げたような違いがそれぞれの特徴となっています。

○阿部委員 開隆堂については、つくられた教材、素材をより深める教材というところにポイントがあって、日文については、幅広く持たせて課題探究のニーズを深められるようにするという理解でよろしいですか。

○森岡企画担当係長 そうですね。日文のほうも、開隆堂のように絞られた題材もありながら、幅の広い教材も用意されているという印象です。

○阿部委員 わかりました。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、観点の整理ということで、今の質疑、それから、前回の小委員会委員長の報告等々を整理してみますと、今おっしゃった表現領域や鑑賞領域における課題探究的な学習といった点において、2者の違いとか、特徴が出ているのではないかということで、ここの観点から札幌の子どもたちにとってどの教科書が望ましいかということについて、それぞれのご意見を伺いたいと思いますが、よろしいでしょうか。

それでは、佐藤委員からお願いいたします。

○佐藤委員 両者を拝見して、本当に両者とも魅力的な教科書でありまして、これも迷うところであります。

今、ご報告いただきましたように、前回もそこら辺が話題になったわけですが、開隆堂のほう素材、テーマを絞った形で掲載されており、日文のほう材料や表現方法に幅を持たせてあるという特徴の違いがあったわけです。ここは、私としては、課題探究には幅を持たせたほうの日文のほうが適切ではないかと思えます。いわば、子どもの自由な発想としても尊重していくといった図画工作の教科的な特徴とあわせて考えますと、幅の広いほうの日文がよろしいのでは

ないかと思っております。

○阿部委員 私も2者で迷うところではあったのですが、社会の関連と同じように、幅を広く持たせていただいている日文のほうが適切ではないかと、より一層、幅が広いことによって課題探究心が広がってくれたらよいなと思っております。

開隆堂のほうは、編集の仕方に非常に特徴があるなと思うところがありまして、各ページの左のちょっと上のほうに「学習のめあて」というセクションごとに設けていただいているところがあるのです。ほぼ、そのページごとに目当てがあるのですが、ここが非常にわかりやすいというところがちょっと捨てがたいなというところでもあるのですけれども、どちらをこう選ぶかとなったときに、今回の観点の中で表現と学習というところが非常に大きなポイントになったと思いますので、そういった意味では、日文のほうかと私は思っております。

○石井委員 私も、日文がふさわしいのではないかと考えています。先ほどから話に上がっている、幅があるというところで、いろいろな材料などを使って自分なりのあらわし方を工夫する学習活動が可能な点が子どもたちのさまざまな感性に合っている表現だったり、鑑賞の幅を持たせてあげることができると思いました。

特に私がすごくよいなと思ったのは5・6年生下の複数の作品の空のあらわし方だったり違いを見つける単元のところで、気づいたことや感じたことを話し合うところで、さらにこう自分でも空を描いてみる活動というのが鑑賞と表現の部分で一体になっていて非常におもしろいと思いました。

以上です。

○道尻委員 私も、日文が少し抜きんでていると思います。

表現領域に関しては、それぞれ特徴がありまして、優劣つけがたいと思っておりますが、鑑賞領域に関しては、今お話がありましたように、表現と鑑賞の一体化といいますか、鑑賞領域と表現領域の関連性を含めた学習が特徴になっていると思いますので、その点で日文のほうがこの教科書で札幌の子どもたちに学んでもらいたいなと感じました。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

今、皆さんにお伺いしましたけれども、日文のほうが扱う材料の幅広いといった構成を捉えており、表現と鑑賞の関連を図った学習活動の設定が可能だとい



うことから、日文がよろしいのではないかというご意見でした。

皆さん、日文ということでございますので、図画工作につきましては、日文を選定することといたします。

次は、音楽について審議を行います。

音楽につきましては、7月26日の審議において、対象となる教出、教芸の2者を選定の候補といたしました。この2者のうちから1者を選定いたします。

こちらにつきましても、前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問等がございましたらお伺いいたします。

○阿部委員 音楽は、特に国際性というところがほかの教科と違う観点の視点になっていると思うのですが、どちらの教科書も特徴がそれぞれにあると思います。改めて、国際性について教えていただければと思います。

○山下義務教育担当係長 国際性については、どちらの者も、例えば、外国語の歌詞の曲を掲載したり、または、国際性を育む素地となる日本の伝統を捉えるというところに、それぞれの者が編集の中で重きを置いているところです。

小委員会の中で特に話題になったのは、教育芸術社においては、その日本の伝統のところに少し比重があるのではないかということが出ておりました。例えば、前回も小委員会の委員長からご紹介しましたが、両者に4年生において、箏を弾いてみる活動は掲載されながらも、教育芸術社のほうがより実際に弾くということが想定された紙面構成になっていると、実際に座り方とか手の当て方、爪の使い方などが詳細に掲載されているということが小委員会で話題になっておりました。

同じく、教育芸術社については、これも両者にあるものの、1年生、2年生低学年において、わらべ歌、日本の伝統的な音楽を理解するもとになると言われている日本のわらべ歌の掲載について、遊び方なども含めて詳細に複数掲載されていることが特徴として上げられました。

一方、教育出版については、ちょうど3年生の外国語活動のスタートにあわせて、例えば、世界の挨拶を掲載するとともに、世界に目を向けるような歌の構成、あとは、教科横断的なページが後ろのほうにどの学年もあるのですが、例えば、外国語の歌詞が複数掲載されていて、例えば、教出の3年生の後ろの音楽ランドというところですが、「イツ・ア・スモールワールド」というものが外国語の歌詞として掲載されています。そういう意味で、世界に音楽の部分からも目を向けることが可能になっています。

あとは、世界の音楽、民族音楽とか世界の楽器、歌などの掲載も行っております。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ほかに、ご質問等はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、今あった質疑と前回の小委員会の委員長のご報告、質疑等々を踏まえまして、観点を整理いたしますと、音楽につきましても、国際性を育む学習活動の取り扱い、それから、表現領域における課題探究的な学習活動の取り扱い、そして、意欲を高める工夫、器楽や歌への苦手意識などへの配慮、それから、札幌の文化的環境の活用といったところの観点で2者の違い、特徴があるのではないかと考えていますけれども、その観点で見るとということによってよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたちにどの教科書がよいかについて、各委員からご意見をいただきたいと思います。

それでは、阿部委員からお願いできますか。

○阿部委員 今、教育長からお話がありました三つの観点の中で、特に二つの教科書会社で大きな違いがあったところにおいては、国際性を育む学習活動の取り扱いというところかと思うのですが、今、改めてご説明いただきましたように、教出のほうは世界各国の歌だったり、世界を触れるというところで国際性を育むというところにポイントを置いていると思うのですが、一方、教芸のほうは、日本をまず知るということを大切にしながら、国際性を育んでいこうというところのポイントが2者の大きな違いだと私自身は感じました。

そこで、ほかの観点は私自身そんなに大きな違いは感じられなかったというところがあったので、この国際性のところにポイントを置いて考えたときに、やはり日本をまず知るというところにポイントを置いている教芸のほうかなと私は思いましたので、教芸のほうを候補としたいと思いました。

以上です。

○石井委員 私は、教芸社が音楽の教科書としてふさわしいのではないかとこのように考えています。

各観点については、2者比較して説明していただいたのですが、まず、札幌らしさを生かした学習活動の推進というところで、やはり、教芸社は札幌コンサートホールKitaraのステージだったり、札幌交響楽団が演奏している様子が掲載されていて、札幌市の子どもたち全員が参加するKitaraファースト・コンサートでしたり、あとは、限られた子どもたちにはなりませんけれども、PMFなどの民間コンサートに対して期待感を持つことが可能なのではないかなと思っています。

もう一つの観点の国際性を育む学習活動の取り扱いで、教育出版は、世界各国の歌の掲載数が教芸社より多いということだったので、教芸社は、日本の伝統的な音楽について詳しく説明しているとともに、同じく掲載されている外国語の曲などを比較すると、またちょっと違うと思っていまして、例えば、5年生で「こげよマイケル」という曲が、外国の曲があると思うのですが、教育出版は楽曲の掲載にとどまっているのに対して、教芸社はかけあいを楽しむといった工夫があって、より外国語の曲を発展的に捉えられて楽しめる内容になっているのではないかというふうに感じました。

あとは、課題探究的な学習活動の取り扱いで、表現領域における課題探究的な取り扱いについては、4年生の「もみじ」で両者ともにあるのですが、教育出版のほうは、歌が追いかけてこになっていることを気づかせるというような音楽的な構造について理解を深めるのが特徴になっているのに対して、教芸社のほうは、追いかけてこになっていることはあらかじめ教科書で示した上で、歌詞のあらかず情景や曲の構造をかかわらせながら表現を工夫するという子どもたちに話し合わせるように、音楽の表現を課題探究的に深めていけるようなつくりになっているのではないかと思いました。

音楽づくりにおいても、教芸社は、低学年のうちから音楽づくりの活動になれ親しむことが可能で、発達の段階的に使用する音域だったり表現の幅を広げるように配慮された構成であるのが魅力的だと思いました。

あとは、鑑賞における課題探究的な学習の扱いで、両者ともに同じ曲でしたけれども、教育出版は3年生で、教芸社は4年生のほうで、サン・サーンスの「動物の謝肉祭」という組曲の「白鳥」を扱っているのですが、教育出版のほうは「白鳥」を旋律の流れに合わせて体を動かすことで音の変化だったり旋律の変化を捉えて曲の構造のかかわりを気づかせるという内容になっているのですが、教芸社のほうは、「白鳥」プラス、同じ組曲内の「堂々たるライオンの行進」を扱っていて、そちらも体を動かして曲を理解するということプラス、さらに、音楽を聞いて白鳥やライオンを感じさせるという音楽的な鑑賞をする上でとても必要な課題を持ちながら子どもたちが鑑賞できる内容になっているのではないかと思いました。

あとは、札幌市の観点で、豊かな人間性や社会性を育む学習活動の取り扱いでも、両者ともに6年生で「ふるさと」を扱っているのですけれども、「ふるさと」の扱い方も2者でちょっと特徴が違っていると思っていて、教芸社のほうは、子ども同士でどのように歌うか話し合う展開が示されていて、その音楽を通したコミュニケーションを重視した構成であるということを感じました。さらに発展した活動でインタビュー活動も示されていて、音楽を捉える感性を育むとともに、こう豊かな人間性だったり、社会性を音楽を通じて育むことができるのではないかとこのように思いました。

少し長くなってしまったのですが、以上の観点を比較して、私は教芸社がふさわしいのではないかとこのように思っていて、音楽が好きな児童だけではなくて、苦手な児童も音楽に親しみ、発展的な学習につなげられるという点で、私は、教芸社に配慮があるのではないかと考えています。

○道尻委員 私も、教芸社のほうがよいのではないかと思います。

低学年のうちには、楽しみながら、遊びながら音楽を学んだりするという工夫がされているのではないかと、高学年になりますと、今、石井委員からお話があったとおり、表現を学ばせる上で、この歌の情景とか構造とかかわりながら表現させていくと、歌い方を考えながら課題探究的に学んでいくということが図られているのではないかとこのように思うところが理由でございます。

以上です。

○佐藤委員 私も、教芸社がよいと思います。

両者とも国際性、それから、郷土の音楽ということ、両者とも含まれてはいるのですけれども、どちらかというところ、教出のほうは国際寄り、教芸のほうは郷土寄りと、日本伝統に重きが置かれているということでありました。これは、指導要領の方向性に合致するものですし、もう一つは、石井委員もおっしゃったように、教芸社のほうは、子どもに手がかりをはっきり示して、それをさらに発展させていくという流れについて、教出のほうは手がかりを見つけさせていくという流れですが、そこを明確に示して、さらに発展させていくという教芸社のほうに好感を持ちました。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それぞれ、今、皆さんのほうからお話がありました。

教芸のほうについても、国際性の観点では音楽の学習として取り扱うことが可能な構成になっているということで、国際性というところで、まずは日本から

スタートしていることと、子どもたちに曲の構造をまず捉えさせて、その後、発展ということで歌詞の表す情景などから表現を工夫するような学習活動が成り立つ、それから、低学年のうちから音楽づくりの活動になれ親しむことができるような工夫がされている等々がございました。

また、音楽の苦手な子どもに対する配慮も教芸のほうがあるのではないかということもありました。

あとは、コンサートホールK i t a r aについても取り上げていただいております、この辺についても、ファースト・コンサート等々、札幌の子どもたちが非常に親しんでいるところがあるので、よろしいのではないかという意見がございました。

皆さん、教芸ということでございますので、音楽につきましては、教芸が札幌市の子どもたちにとってより望ましいのではないかというところでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、音楽については教芸といたします。

続きまして、理科についてご審議いたします。

理科については、7月26日の審議において、東書、教出、啓林館の3者を選定の候補といたしましたので、この3者のうちから1者を選定いたします。

前回の審議を踏まえまして、さらに、各委員からご質問がございましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

特によろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、理科につきましても、観点の整理ということで、前回の小委員会委員長の報告、それから、質疑応答等を私なりに整理いたしますと、理科につきましては、課題探究的な学習活動の取り扱い、自然災害の取り扱いの観点において、教科書の特徴や違いがあるように思いましたけれども、そういった観点で議事を進めさせていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、このような観点を中心に札幌の子どもたちにとっ

てどの教科書がより望ましいかということにつきまして、各委員からのご意見をいただきたいと思います。

石井委員からお願いできますか。

○石井委員 非常に迷ったのですけれども、私は、東京書籍がふさわしいのではないかと考えています。

まず、教科書の構成が非常にわかりやすく、問題、観察、実験、まとめだったり構成のわかりやすさと、活動の中でクラスの友達と話し合う工夫だったり、疑問や気づきを話し合うプロセスがしっかりと掲載されていて、そこで課題探究的な学習に適合しているのではないかと思います。

あとは、北海道とのかかわりのある内容について、札幌市の植物の様子を1年間掲載していることに対しても、地域の自然に対する興味・関心を高めることになると思いますし、防災に関しても、5年生の教科書の中で身近な生活場面で考えて話し合っ自分の身を守るためにできることを考えたりする活動が設定されていて、自然と人間との共生について考えることができるのではないかと思います。

○道尻委員 私も、東京書籍が適していると考えます。

地域の自然に関して見ますと、札幌などの全国5都市の植物の様子を1年間観察したものを掲載されているようなことで興味・関心を高めるとか、実際にプログラミングの機器を動かしてみる学習とか、自分で取り組んで、その結果について考えさせるということが幾つかのところで盛り込まれているということ、それから、災害の原因とか命を守る方法についても、取り上げることはもちろんですけれども、さらに話し合うという形での学習が盛り込まれています。それから、図や写真の大きさも見やすいのではないかと思います。そういった全体的な考慮した結果として、他の教科書もそれぞれ工夫はされているのですけれども、東京書籍が一番適しているのではないかと思います。

○佐藤委員 私も、東書が一番よいと思いました。

もう既に幾つか出ているので、別な観点から申しますと、候補に挙がっている三つは、その判がそれぞれ違いまして、東書が一番大きくて、教出が中間で、啓林館が一番小さいということですが、理科のさまざまな器具などが表示される時に、この大判の東書というのは、まずは非常に見やすいなということがありました。

それから、ちょっと細かいところですが、皆様方が指摘されていないところです。例えば、5年の「物のとけ方」のところで、食塩は冷やしても水溶液

から取り出しにくい、取り出せないというところで各者を比較してみたのですけれども、一般化して言うと、前回も申し上げたように、実験の結果から、そのま  
とめに移るときの中間のいわば理由部分で、なぜこの結果からまとめが導けるの  
かという理由を考察させる、考えさせるという部分で、これは各者で考察しよ  
う、結果から考えようという形で設定はしてあるのですけれども、例えば、5年  
の「物のとけ方」で言うと、東書がその説明が一番わかりやすいと思いました。

具体的に言うと、東書の5年の108ページ、109ページに書いてあるデータの  
表、グラフです。こういったところ、もちろん、各者、説明を工夫しているの  
ですけれども、恐らく5年生にすんなり入ってきやすいのは東書の説明かというふ  
うに思いまして、結果からまとめに移るときの説明が一步すぐれております。

3年生の物の重さでも見たのですけれども、同様に思いました。

以上です。

○阿部委員 私も、皆さんと同じ東京書籍です。

佐藤委員もご指摘されたように、本の大きさというところが特徴になっている  
ということと、全体的に文字が大きく表現されていることから、子どもたちにと  
ってもすんなり入れる仕様になっているというところは、非常によいと思ってい  
ます。

また、結果から考察するというところが、東書はほかと比べると考えようとい  
う気持ちにさせてもらえそうだと感じています。そういった意味でも、ほかとち  
よっと差がついているところだと思います。

ただ、1点気になるところは、先ほど社会のところでもあったように、一番最  
初の問いかけのところで、「問題」とすごく大きく出ているのです。それは、問  
題として自分だけで考えなければいけないことではないのですけれども、先ほどの  
社会と同じように、子どもたちにプレッシャーが行かないように、そういうと  
ころでの授業の工夫というのは必要になるというところが少し懸念する点です。ほ  
かのところはすごくよいと思うのですが、そこだけがちょっと気になる点ですの  
で、実際の活動のときには、先生たちのほうで工夫が必要かと思っているところ  
です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

理科につきましても、各委員が東京書籍ということでございます。

理由については、今、それぞれ述べられましたけれども、例えば、考察しよ  
うというところで、実験結果から、その理由等を導き出すところが東書のほう  
がすぐれているのではないかということです。また、判の大きさというところも  
ありますが、実験器具を扱うのであれば、大判のほうの方がより見やすさの  
点でもよいの

ではないかというところもございました。

また、判自体、ページの構成もいろいろわかりやすいということでございます。

あとは、札幌の植物を1年通して見てみるということで、札幌の子どもたちにとっても興味・関心が寄せられるのではないかとということ等々がございました。

こういった理由から、理科につきましては、東京書籍ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、理科につきましては、東京書籍を選定することといたします。

次に、道徳について審議を行います。

道徳につきましては、7月24日の審議におきまして、光村、光文、学研の3者を選定の候補といたしましたので、この3者の中から1者を選定いたします。

前回の審議に加えまして、さらにご質問がございましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、観点の整理ということで、前回の審議における小委員長の報告、質疑応答等を整理してみますと、道徳につきましては、課題探究的な学習活動の取り扱いや、自分や他者の生命を尊重する心を育む学習活動の取り扱い、自己肯定感の視点となっておりますけれども、こういった観点において、各教科書の特徴や違いがありますけれども、こういったことを論点ということで考えたいのですけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたちにとって、どの教科書がより望ましいかということについて、ご意見をいただきたいと思っております。

それではまず、道尻委員からお願いいたします。

○道尻委員 道徳につきましては、光村図書がよいのではないかと感じております。



各者、教材の後に考えるための手がかりが記載されているのですけれども、光村図書においては、考えよう・話し合おうという形、あるいは、演じて考えようというものが取り入れられているところもございます。そういったようなところが一つ課題探究的な面では工夫されているのかなと思います。

あとは、次の観点で、自分や他者の生命を尊重するという点ですが、これは、今ここに上がっています三つの教科書において、私は、いずれも遜色ないのではないかと感じていました。

自己肯定感のところにつきましても、それぞれ取り上げられておまして、自己肯定感を高める内容が盛り込まれていると感じております。

以上のようなところからしまして、課題探究的な構成というところで、光村図書を推したいというのが現在の考えです。

○佐藤委員 観点のB、課題探究的な学習活動、それから、道徳ですので、やはり、意見を交換し合うといった活動が必要になると思うのですけれども、この点については、各者ほぼ違いがないと思いました。

それから、私は、光村と光文で迷ったのですけれども、特に、やはり光文のページ下の発問というのはよいなと思いました。発問自体は、教科書に書いてある発問としては光文が下の欄の物も含めると一番多くなると思ったのです。

ただ、やはり、光村と光文で悩んで、こう教科書の構成を比較してみますと、私も光村のほうに、見やすさという点において長があるかなと思います。

それから、その発問が多いというのは、やはりよしあしもありまして、恐らく、これは札幌市の先生方なら授業の中でぜひ子どもたちに話し合わせたい部分がおありになると思うのです。実際に、去年、視察させていただいたときも、先生が工夫された発問があったと思いますので、そういう点では、比較的自由度の広い光村のほうを使いやすいのではないかと、それから、子どもたちにとっても見やすいのではないかと感じました。

以上です。

○阿部委員 私も、皆さんと同じ意見で、光村がよいと思います。

全てのセクションに、考えよう・話し合おうというところがある程度題材として用意されているのは、道徳の授業という観点からも、現場の先生も使い勝手がよいのではないかとご意見がありましたので、そういう点からもある程度の考えたり話し合ったりするような項目を用意していただいているところが非常に使いやすさを感じます。もう一点は、つなげようという部分です。この部分でも、子どもたちのコミュニケーション、会話が深まるような要素にもなっているところではあります。

もう一つは、前回もお話しさせていただいたように、演じて考えようというところも、非常に特徴的でわかりやすく取り上げていただいているという印象を受けました。そういった意味でも、ほかの教科書と比べましたが、光村、東京書籍は圧倒的にすぐれていると私は感じています。

○石井委員 私も、光村図書が適しているのではないかと考えています。

課題探究的な学習の面で、先ほどからほかの委員もおっしゃっているように、考えよう・話し合おうだったり、つなげようというデザインで、子どもたちが主体的に課題を持って取り組んでいけるようになるかと思ひますし、全学年で演じて疑似体験から道徳について考えることができるのも光村かと思っています。

私は、ともに生きる喜びを実感できる学習活動の推進という面で、自己肯定感を育むという面でも光村がすぐれているのではないかとと思ひまして、一人一人の子どもの個性や人権を大切にしている視点が多いのも光村かと思っています。

前回も言ったかもしれないのですがけれども、2年生での教材の「どうして うまくいかないのかな」という教材では、うまくいかないけれども、頑張った自分が好きになれたという視点が他者にはない視点かと思ひました。2年生で自己肯定感を培うのは、とても私は大事ではないかと思ひまして、最近ですと、いじめ問題、ちょっと2年生でふえているという話も聞いて、やはり自己肯定感が低いと、ほかの人と比較してしまったり、いじめにつながる人が多いと思うのですけれども、2年生で頑張った自分を好きになれるという自己肯定感を育めるような内容が教科書に載っていると、非常に低学年のうちから自己肯定感を育むことができるのではないかと思ひました。

やはり、子どもの権利条約ですとか世界人権関係についても、すごくウエートが多いページで占めていて、やはり、他者と、ともに生きるという視点に関しても、光村はすぐれているのではないかと思ひます。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

各委員、光村ということでのご意見でございました。

理由につきましては、今、それぞれあったように、課題探究的な学習活動においては、考えよう・話し合おう、つなげようという、それぞれの子どもたちが主体的に課題を探究することを促す内容、工夫がなされているということと、演じて考えようということで、話し合う、体験活動を通じて実感を持って道徳という活動について考えを深めることができる。自己肯定感を高める教材という観点でも、今、石井委員もおっしゃったようなところですがすぐれているということでもございました。

以上のことから、道徳につきましては、光村図書を選定することとしてよろし

いでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、道德につきましては、光村を選定することといたします。

それでは、保健について審議を行います。

保健につきましては、7月24日の審議におきまして、光文、学研の2者を選定候補としましたので、この2者のうちから1者を選定いたします。

前回の審議を踏まえまして、ご質問がございましたらお願いします。

よろしいでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、前回の審議における小委員長の報告、質疑応答等を振り返りまして私なりに整理いたしますと、保健につきましては、基本的な生活習慣の確立や運動と健康との関連、そして、心の健康に関する取り扱い、こういった観点で各教科書の特徴や違いはあったように思いますが、いかがでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、こういった観点を中心に札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいかということについて、各委員からのご意見を伺いたいと思います。

それではまず、佐藤委員からお願いできますか。

○佐藤委員 私も、光文と学研、甲乙つけがたいと思ったのですが、どちらかといえば、光文かと思います。

これも見やすさというところですが、例えば、3年生のけんこうな1日の生活、1日の生活のしかたというところで比較しますと、やはり、自分の生活と比較することで、規則正しい生活リズムの大切さに気づけると、生活リズムが狂うとどうなるかというのが光文のほうに載っていて、これから学校生活、社会生活を送っていくのに基礎として非常に重要な部分が丁寧に説明されていると感じました。

それから、4コマストーリー、前回、ご指摘があった部分ですが、

の部分も子どもたちにとってはわかりやすいと思ひまして、一歩、光文のほうが適切かと思ひました。

以上です。

○阿部委員 私も、佐藤委員と同じで、光文、どちらも非常に迷うところなので、本当に甲乙つけがたいという、どちらが選ばれてもというところではあるのですが、今、佐藤委員からもお話がありましたように、4コマストーリーの形式というところは、光文の一つの特徴になっていると感じたところですね。子どもたちにとって、わかりやすい構成になっているなというところですね。

あとは、睡眠時間の生活に関して、両者ともに扱っていただいていたと思うのですが、そこについても、どちらかというところ、光文のほうがわかりやすく表現していただいている、規則正しい生活のリズムをどういうふうにも築いてもらうかというところにおいては、ちょっと考えるよききっかけになって、それがわかりやすいイラストタッチになっているなという印象を受けた部分がありましたので、その点は2者に大きな違いがあつて、絶対に光文でなければというところではないのですが、どちらかというところ、光文かなというふうな印象を持っております。

○石井委員 私は、光文書院が適しているのではないかと考えています。

今まで、おっしゃっていた4コマストーリーだったり、帯状に基本的な生活習慣という点はもちろんですが、私は、現代の子どもの健康や悩みに寄り添っているのが光文書院なのではないかと思ひて、3点ほど特徴があるなと思ひました。

まず、体のほうの健康について、スマホやタブレットの使用法について、3年生の教科書でしっかりと扱ってくれていて、学研のほうでも載せているのですが、光文書院のほうに非常にわかりやすく載せてくれているなと思ひました。

また、それに付随した目の疲れも、現代の子どもたちだったり、大人もそうなのですが、そういったことにしっかりと触れているということ、2点目がそれも体の健康なのですが、痩せ過ぎに注意することを光文書院は載せていて、これもちょっと学研と比較したときに、光文のほうにしっかりと載せていると思ひました。最近ですと、痩せ過ぎている女性とか、男性なども美意識を高く持つ余り痩せ過ぎているということもあるので、現代人の悩みにしっかりと寄り添っているなと思ひました。

3点目は、ジェンダーの問題について触れているのも光文のほうに寄り添ってくれていると思ひました。学研のほうでも5・6年生で悩みに寄り添うという面

があるのですけれども、光文のほうは3・4年生でジェンダーについて触れていて、早い段階、早い時期からジェンダーの多様性だったり、多様な生き方について、自然と教科書を使って理解することができるというのは非常に大きいのではないかと思いますし、3・4年生からさらに成長して5・6年生になったときに、3・4年生の教科書にジェンダーのことが書いてあると、子どもたちが性的マイノリティーであるということをもし自覚したときに、自己肯定感を保って大人になっていけるのではないかと思います。

以上です。

○道尻委員 私も、光文書院が見やすくてよいのではないかと思います。

分量的にも適切な内容が理解しやすい形で書かれていると思います。

書き込みのページも設けられているのですけれども、それも適切な形で設けられていまして、理解、自分の生活に生かすことができるような構成になっているのではないかと思います。

以上です。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、保健につきましては、各委員、光文書院ということでのお話がございました。

理由につきましては、今、段々のお話がありましたけれども、4コマストーリーが最初に掲載されていて、詳細に把握できて、また、生活リズムの関係が非常に生活が乱れたときの困りということまでしっかりと書かれている。

また、3・4年生のジェンダーについても、早い段階からそういうことについて、書かれていることによって、それ以降に大きな意味を持つのではないかという話もございました。

また、その子どもたちに寄り添って健康や悩みということについても詳しくご説明いただいているということで、光文書院がよいのではないかとということでございました。

このような理由からも、保健につきましては、光文書院ということでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 ありがとうございます。

それでは、保健につきましては、光文書院を選定することといたします。

ここで、20分ほど休憩をいたします。

[ 休 憩 ]

○長谷川教育長 それでは、審議を再開いたします。

次は、生活について審議をいたします。

生活につきましては、7月24日の審議におきまして、東書、教出の2者を選定の候補といたしましたので、この2者の中から1者を選定いたします。

前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からの質問がございましたらお願いいたします。

特にございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、観点の整理ということで、前回の審議における小委員長長の報告、そして、質疑応答等を整理いたしますと、生活の場合は、課題探究的な学習の取り扱い、そして、自己肯定感を育む学習活動の取り扱いについて、各教科の特徴が見られるということでしたけれども、いかがでしょうか。

よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたちにとってどの教科書がより望ましいかということにつきまして、各委員からのご意見をいただきたいと思います。

それでは、阿部委員からお願いできますでしょうか。

○阿部委員 2者で、非常にこう迷ったところだったのですけれども、今、観点二つ、教育長のほうからお話がありまして、二つの観点から比較して拝見させていただいたところ、まず、課題探究的な学習活動の取り扱いというところにおいては、教出のほうは、わかるかなという言葉の投げかけだったり、要所、要所に「ひんと」というところがわかりやすく表現されているという点から、私は、教出のほうの方がわかりやすいなと思います。あとは、「学びのポケット」というのが最終の巻末のところにもまとめて表現されているところが各ページとの連携を図っていらっしゃるというところにおいては、教出のほうの方が全体的に言うところとわかりやすくなっているなという印象を受けました。

それから、生活の中での自己肯定感というのは、他の教科と比較しますと、一

つの特徴になっていると感じたのですけれども、こちらにつきましても、各セクションのところに、「まんぞくハシゴ」というところがあって、ここが一つの大きな特徴だと私のほうでは捉えました。これを子どもたちが自分で自分は今ゼロから100の中のどの位置にいるかなというのを自分自身で自分を評価するところにおいて、自己肯定感につながりやすいところがあって、もちろん、東書のほうは、「できるようになったことをふりかえろう」というところでまとめてくださっているのですけれども、教育出版のほうが見通しが立てやすくなっていて、自分で自分をわかりやすく表現できるのはどちらかなというふうに考えたときに、教育出版のほうが自己肯定感につながりやすい構成をしてくださっているなという印象を受けましたので、私としては、どちらかというところ、教育出版かなと今のところは思っております。

○石井委員 2者で、ちょっと非常に悩んでおまして、今回、観点のほうから見えていくと、課題探究的な学習活動の取り扱いでは、東書のほうは、疑問だったり困りごとというのを友達と会話をしながら解決していく活動があるので、教育出版のほうは、お友達と交流しながら問題を考えていくというベースがあるのですが、何かどちらかというところ、自分で解決するというか、何を感じたかなという自分の考えを整理する、できる視点が教育出版のほうかと思いました。

自己肯定感という点では、やはり、阿部委員がおっしゃったように、「まんぞくハシゴ」でしたり、「学びのポケット」というところで振り返りがしやすく、自己肯定感を育むにはよいと思いました。特に、「まんぞくハシゴ」というのは、自分で評価する部分ではあると思うのですけれども、自分自身を客観的に認知する能力というか、そういった目標の設定だったり、達成する力というのを自分自身で低学年のうちから育むことが可能ではないかと思いました。

生活科というのは、成長するにつれて、各教科につながっていく科目だと思うのですけれども、自分の学習を振り返って、何が苦手で、何ができたのかという、自分を知る、客観的に見る能力が育まれるような教科書が教育出版ではないかと思いました。

以上です。

○長谷川教育長 どちらですか。

○石井委員 そうですね。どちらかというところ、教育出版かなと思いますけれども、2者で悩んでいます。

○道尻委員 私は、教育出版が少し先んじているかと思えます。

いろいろな社会、自然とのかかわり、あるいは、自分自身について考えるということで、その感じたり、考えたことを伝える、こういったことが必要な科目だと思いますけれども、この点においては、東京書籍、教育出版、それぞれ考えられた教科書ではないかと思っています。

一方、自己表現とか自己肯定感というところにつながる部分で考えていったときに、教育出版のほうは各単元の後に書き込むところがあって、これは振り返るということ、あるいは、大切なことを確認するということにつながると思いますし、先ほどから話題に出ています「まんぞくハシゴ」を含めて、達成感とか自分自身の今の状況を自己表現するといったことができる工夫が施されているという意味で、一步、教育出版のほうに分があるかなと思っています。

○佐藤委員 私も、教育出版を結論としては推したいと思います。

下のほうの野菜の育て方、それから、上のほうの虫を見つけるところで比較してみたのですが、やはり、情報量としては東書のほうが多いのです。私は、前回の会議までは、どちらかという、情報量が多くてきちんと説明されていたほうがよいと思ったのですが、前回の説明、研究の結果を伺いまして、これは小学校低学年、1・2年生を対象としたと言ったら変ですが、1・2年生の教科であるということを考えると、余りにも情報が多過ぎて小さい字がたくさんあっても、なかなか理解が深まらない面というのもあるかもしれないなど。

比較すると、東書のほうは、吹き出しでそれぞれの子どもたちの言葉が書かれていたり、細かくノートのつくり方が例としてたくさん載っていたりといった、どちらかという進みが早いほうにとっては参考になることも多いと思うのですが、それに対して、教育出版のほうは写真がたくさん載せられていて、もちろん、日記のつけ方ですとか、あるいは、育て方図鑑というのが後ろのほうにこうまとめられているという構成になっているのです。

これを比較したときに、教育出版のほうは視覚的に訴えかけてくるものが非常に強いと思ひまして、これを小学校1・2年生に教えたときに、どちらが授業の中でさまざまな子どもがいる中でどちらがよいかという、やはり教出のほうに分があるのかなと思っています。

それから、各委員ご指摘のように、「まんぞくハシゴ」というのは、私も注目していて、ここを登らせていくということで、どれだけの到達度なのかということをご自己チェックさせるというのはとてもよいと思います。

そんなところです。

○長谷川教育長 石井委員はどうですか。



○石井委員 自己肯定感という点では、教育出版というお話が皆さんから出てきて、教育出版かと思います。

○長谷川教育長 それでは、各委員、教育出版ということでございました。

理由につきましては、課題探究的な学習活動の取り扱いにつきましては、わかるかなという思考を促す言葉や考える際のヒントが示されていたり、子どもがみずから活動しながら追究するような工夫がされているとか、「学びのポケット」で振り返りがしやすい、わかりやすい工夫、そして、自己肯定感を育むということで皆さんおっしゃっていましたが、「まんぞくハシゴ」により自分の達成感を視覚的に自覚することができるということなどから、教育出版がよろしいのではないかということでございました。

こういった理由で、生活につきましては、教育出版が札幌市の子どもたちにとって望ましいのではないかということで、いかがでしょうか。

よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、生活につきましては、教育出版を選定することといたします。

次に、国語と書写について、あわせて審議をお願いします。

7月24日の審議におきまして、国語は東書、教出、光村の3者を、書写は教出、光村の2者を選定の候補としましたので、それぞれ選定いたします。

まず、前回の審議を踏まえまして、さらに各委員からご質問がございましたらお伺いいたします。

いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、観点の整理ということで、前回の審議における小委員長報告、そして、質疑応答等を私なりに整理しますと、国語の場合につきましては、「読書」に関する学習活動の取り扱い、「読むこと」領域における課題探究的な学習活動の取り扱いの観点において、各教科書の特徴や違いがあったかのではないかと。また、書写につきましては、課題探究的な学習活動の取り扱い、手書きや毛筆の取り扱いに関して、各教科書において特徴や違いがあったと思いますが、よろしいですか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、これらの観点を中心に札幌の子どもたちにとってどの教科書がよいかということにつきまして、各委員からご意見をいただきたいと思ひます。

それではまず、石井委員からお願いいたします。

○石井委員 私は、教育出版と光村ですごく悩んでいて、でも、各観点という話で行くと、「読書」に関する学習活動の取り扱いでは、2者とも実際に学校図書館を実際に活用して学習の活動をする、読書に親しむ態度を育ていける構成ということと、あとは、「読むこと」領域における課題探究的な学習では、例えば、教育出版だと、4年生だけということ、一つのテーマに沿って複数の題材を組み合わせる目的意識を持って読むことが可能になっている点と、光村は、二つの文章を比べて話の展開や表現の仕方に着目し合う、感想を伝え合うという言語活動があつて、どちらも魅力的で、2者でちょっと決めかねていて、ほかの委員の話聞いてまた考えようかと思ひています。

書写に関しては、光村図書がふさわしいのではないかと私は思ひています。

理由としましては、ほかの教科につなげるページがあつたり、課題探究的な学習に適した構成になっているのではないかと思ひています。

どういったところが課題探究的かというところ、私は、手書きの力というところを光村の書写の教科書はしっかりと取り扱っていて、筆記用具の選択や文字の配列の工夫など、そういった書くことの意義を課題探究的に子どもたちに学習させることができるのではないかと思ひています。

今の時代だと、パソコンでの文書作成やデザインが主流になっていると思うのですがけれども、今の時代の子供たちがなぜ手書きで書写を学ぶのかという書写の存在意義を光村の教科書は改めて示してくれて、学ぶ基本を示してくれているのではないかと思ひています。

○道尻委員 私は、教育出版の教科書がよいのではないかと思ひております。

まず、最初のところで、何年生で学ぶことということが見開きのページで示されていて、1年間の内容がわかりやすいということですね。

それから、先ほどの4年生の「ごんぎつね」もそうだと思いますが、話し合つて考える教材、これについては、まず、子どもの会話の様子が示されていて、そこで、考えたり、広げたりというような構成になっていて、さらに、その後「ここが大事」とか「ふり返ろう」という、そういうことで、プリントを確

認して考えを深めるといふ、そういう構成がよく工夫されているのではないかなというふうに感じました。

読書については、正直、光村のほうもよくできているのではないかと思うので、その点については、そんなに差異や優劣を感じなかったところです。先ほどの対話形式といいますか、考えるための教材の取り上げ方が教育出版のほうにより部分があると感じた次第です。

あと、書写のほうなのですけれども、こちらについても、私は、教育出版がよいのではないかなというふうに今のところ感じています。

まず、考えさせて、実践をして、そして、その学習内容を確認するという、こういうプロセスがきちんととられているのではないかなと。それも、お知らせの文書ですとかプログラムですとかポスターの作成とか、そういった日常生活のいろいろな場面を取り上げているので、そこがわかりやすいといいますか、身近なものを題材にポイントを学んでいくということができるようではないかなというふうに思いまして、教育出版が今のところよいように思っております。

以上です。

○佐藤委員 国語については、ちょっと視点が私なりに「読むこと」領域にかかわって2点ほどあるのですけれども、一つが前回も申し上げましたように、要約というところにちょっとこだわって各者を比較してみました。というのも、やはり上級学年ばかりでなくて、社会に出た後も、説明文については、やはり自分の主観というのをできるだけ入れずに、そこに書かれてあることというのを客観的に理解するということが必要になると思うのですね。この点で、書かれている説明文の要点というのをどういうふうに抽出したらよいのかということをする4年生ですか、要約というところにちょっと注目をした結果、東書と光村というあたりに初め目が向きました。

東書は、3年生から4年生にかけて、3年でも4年でも要約を学ぶと、要約のヤドカリの部分については、かなり詳しい今申し上げたような文章のまとまりというのを捉えさせるような構成になっている点で評価をしておりました。

一方、光村では、4年生の「伝統工芸のよさを伝えよう」というところに、「世界にほこる和紙」というところで、ここで中心となる語句を見つけて要約するということが指導されているわけですが、ここでも、光村のほうを見ても、まず、非常に丁寧に指示が具体的な形で示されているという点で、その要約については、東書、光村は甲乙つけがたいと考えておりました。

次に、2点目ですけれども、物語文ですね。何がどう展開されているかというところなのですけれども、共通教材として4年生の「ごんぎつね」、それから、5年生の「大造じいさんとガン」というあたりが各者共通していた部分だと思う

のですけれども、やはり、ここで、東書と光村を比較すると、光村の発問のほうに若干の分があるかなという感じがありました。特に、「ごんぎつね」のところが前回申し上げたかもしれないけれども、本質、「ごんぎつね」という作品の本質に迫るような、そういう発問というのが光村に見られている。こういう点では、教出にも見られていると思いました。

もう一つ、5年生の「大造じいさんとガン」を見比べてみますと、ここに実はこの候補に上がっている3者にいわゆる文学作品というものをどういうふうに掲載するのかという点について、大きな差がありまして、まず、教出のほうは、である調でこの作品を表現しているという点ですね。かなり、つまり、これは恐らく大きな変更を加えていると思います。それから、東書のほうは、最初の椋鳩十が設定している物語の前段部分ですね、囲炉裏端で聞いたお話ですという設定を外しています。これは光村以外全者外していたのですけれども、外して、言ってみれば、作品としては途中から始まっているのです。光村だけが、やはり作品全体を載せています。この「大造じいさんとガン」に限らないのですけれども、光村は、ほかの作品についても、文学作品は可能な限り、全てを載せるように恐らく心がけておられるのだと思うのです。つまり、私から見ると、教材を非常に丁寧に扱っているなという印象ですね。

そういう観点からすると、やはり各者それぞれよい点はあるのですけれども、光村に一日の長があるなというふうに思っています。

○阿部委員 私も、3者で本当に迷ったところなのですけれども、まず、観点の読書というところと、読むことの二つをポイントにして考えたときに、光村の場合は、読んだ後に学習の仕方というのを非常に丁寧に使っていていて、例えば、「とらえよう」「深めよう」「まとめよう」「広げよう」というふうに、ストーリー性のある内容で、子どもたちに考えるきっかけづくりをすごく丁寧にしてくださっているなという印象があるのと、それぞれのセクションにあわせて、こういう本と一緒に読んだらよいですよというところが読書につながって、関連性のある本をわかりやすく紹介してくださっているというところが読書活動につながっていきやすいというような印象を非常に受けております。

それから、各セクションのところに、「たいせつ」というところがあるのですけれども、そこも考える一つのきっかけづくりになるように工夫してくださっているなという印象がありましたので、そういった意味から、私としては、光村がよいのではないかなというふうに思いました。

それから、書写のほうにつきましても、同じく光村がよいと思っていて、特に特徴としましては、光村の場合は、1年間で学習する要素がまとまっている「書写ブック」というのがついているのですよね。そこが教出との違い、教出も

非常によいと思ったのですけれども、「レッツ・トライ」というところが非常に特徴になっていてよいなと思ったのですが、その「書写ブック」というところが課題探究的な活動に広がりが見られるなという印象がありましたので、どちらも光村がよいなというふうに私は思っております。

○長谷川教育長 佐藤委員、書写はいかがですか。

○佐藤委員 書写を忘れて申しわけないです。

私は、書写については、教出、光村甲乙つけがたいというふうに思っておりますが、前回、質問した3年生での筆圧の指導の取り扱いですね。ここのわかりやすさで、両者工夫をされているのですけれども、私がわかりやすかったのは光村ということで、やはり国語と同じく書写も光村ということでもあります。

○長谷川教育長 書写の関係ですけれども、ほかの委員の方のご意見を伺っていかがでしょうか。

○道尻委員 まず、書写については、そんなに大きな違いはないと、どちらもよい教材だと思っておりますので、皆様のご意見としては、恐らくそちらのほうが見たいのだろうというふうに考えます。

○長谷川教育長 今、教出、光村ということでご意見をいただいておりますけれども、石井委員、皆様のご意見を聞いてこの中でお考えに変化などはありましたか。

○石井委員 今、改めて皆様のご意見を聞いていて、やはり国語の教科書は光村に傾いているのです。

というのも、光村は、結構、2年生以上の単元の始めに、これまでの学習を振り返れる部分があって、国語の学習でつまづいている子たちも、これまでの学習というところで振り返ることができるのかなと思っております。そういった点でも、読むことに苦手意識を持たない、苦手意識をつくらぬような教科書なのかなというふうに思っています。

○長谷川教育長 お聞きしたいのですけれども、先ほど、佐藤委員から、光村は、作品というか、教材を大事にして、過不足なく掲載している。ほかは、学習指導上の都合なのか、わからないのですけれども、若干、文体が違ったり、カットしたりということ、ここら辺は教えるときに実際にどうなのですか。

○船着義務教育担当係長 常体か、敬体かということについては、その教科書を使う場合は、そこしか見ないので、特に指導上の違いはないと思います。ただ、受ける印象は、もしかすると常体と敬体ということで、違いは出るかもしれませんが、特段、そこに指導上の違いはございません。

○長谷川教育長 あとは、全文をきちんと載せているか、その部分だけ、そんなにカットしているわけではないと思いますけれども、始まりのところは違ったりということ。

○船着義務教育担当係長 そうですね。光村図書だけが「大造じいさんとガン」については、全文ということで、大造じいさんという主人公が昔のことを思い出して語っているという前書きが掲載されています。

ほかの2者については、この部分はなく、思い出話のところからスタートしているという特徴があります。

○長谷川教育長 それは、特に、指導上は。

○船着義務教育担当係長 そうですね。話の捉えが昔話として読むのか、この物語そのものとして読むのかという違いはありますけれども、指導上では支障はございません。

○長谷川教育長 それ以外に何か今のようなところは見られたのでしょうか。

○船着義務教育担当係長 全文かどうかということについては特にありません。

○長谷川教育長 先ほど委員がおっしゃったように、作品を大事にしているという観点はあるのかなということでしょうね。

○佐藤委員 やはり、物語文というのは、一つ、例えば、絵画とか音楽に共通するような、一つの鑑賞教育というところがあると思うのですね。その「大造じいさんとガン」というのは、ここは朗読ということによって、その表現の違いというものを、あるいは、その表現の機微というものに気づかせるという部分なので、やはり、作品として10あるうち8しか示さないというのと、ちゃんと10示すというのは、私としては大きな違いなのではないのかなというふうに思うのです。

○阿部委員 私も同じように感じるのですが、やはり、教科書に向かう姿勢とい  
いますか、それが全文だからあるとかという判断ではないかもしれませんが、  
も、光村の思いをしっかりと込められているのかなと感じたところです。

○長谷川教育長 光村ということで、いろいろお話が出ていますけれども、道尻  
委員、教出ということでのご意見はいかがでしょうか。

○道尻委員 教育出版というふうには私は申し上げておりますけれども、光村の  
教科書もちろん皆さんおっしゃったような特色、よい点があるのだろうと思  
います。

そういった意味で、光村図書を否定的に考えるということは思っておりませ  
ん。むしろ、皆さんが推されるというご意見をお聞きすれば、お勧めの人が多  
いのかなというふうにも感じておりますので、特段こだわりません。

○長谷川教育長 石井委員は。

○石井委員 光村で。

○長谷川教育長 ということで、今、国語の教科書は、光村ということでご意見  
をいただいたところでございます。

選定の理由等々については、光村の「読むこと」領域については、子どもの対  
話例が示され、言語活動を通しての課題の話し合いを通して解決するような促  
し、工夫が見られます。

また、佐藤委員からご説明があった要約に関するところでも、具体的な指示・  
促しがあります。

あとは、阿部委員からも、光村の読書活動を広げるというところでは、関連性  
というものを掲載しており、広がりにより促されているということで、教育出版  
についても、非常によい教科書ということではあったのですが、国語は光  
村ということで決めさせていただいてよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、国語については、光村図書、書写につきましても、  
光村図書を選定することといたします。

続きまして、家庭について審議を行います。

家庭につきましては、7月24日の審議におきまして、対象となる東書、開隆堂の2者を選定の候補としましたので、この2者のうちから1者を選定いたします。

前回の審議を踏まえまして、各委員からご質問がございましたらお願いいたしますが、いかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、観点の整理ということで、前回の小委員長のご報告、そして、質疑応答を私なりに整理いたしますと、家庭の場合につきましては、環境の具体的な内容の取り扱い、そして、課題探究的な学習活動の取り扱い、ここの観点において、各教科書の特徴や違いが見られたというふうに思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、これらの観点を中心に、札幌の子どもたちにとってどの教科書がふさわしいかにつきまして、各委員のほうからご意見をいただきたいと思っております。

まず、道尻委員からお願いいたします。

○道尻委員 家庭につきましては、私は、開隆堂がよいのではないかと考えております。

東京書籍のほうは、サイズが大きくて、また、資料等も多く掲載されています。それはそれで一つの利点だとは思うのですが、小学校高学年とはいえ、小学校で学ぶ内容として開隆堂のほうの情報量が適切ではないかと思っております。

それから、各項目の展開の仕方も、調べよう、考えよう、話し合おうという順序で記載されていまして、わかりやすいと思っております。

あとは、情報の部分については、QRコードで動画も見られるようになっておりまして、映像等を見ながら補充をすると、必要に応じてそのようなことができる工夫がされていますので、むしろ、今の時代に即しているのではないかと思いますので、小学校の家庭科で学ぶものとしては開隆堂がよいのではないかと考えております。

○佐藤委員 私も、これはほかの教科と同じような問題ですけれども、悩みまし



た。つまり、東書は、情報量が大変多いのです。また、前回の研究の成果のご紹介にもありましたように、家庭科を生活科学として捉えさせる工夫も東書には見られるわけですが、開隆堂のほうは、どちらかというと、本当に生活の中で我々がどういう手順で料理をすればよいのかといった具体的な内容になっているのではないかと思います。例えば、炒める調理と、炒めておかずをつくろうとそれぞれあるわけですが、ここを見ますと、やはり東書のほうは、食品の分類でありますとか、分量でありますとか、その調理計画というような形で、やはり洗う、切るから始まって、非常に情報量が多く丁寧にやっているのに対して、開隆堂のほうは、具体的な料理の手順、こうすればできるという具体的な手順が書いてあるのです。これは、私の小学校時代を思い出してみますと、どういう栄養素があって、こういう計画から何センチに切るといことも非常に大事だとは思いますが、実際に自分でつくれるようになってほしいなど、子どもたちには、こういう知識も必要だけれども、家庭科というこの教科においては、日常的に行えるような具体的な手順を知ってほしいというところがわかりやすく書かれているのは、どちらかというと開隆堂かなと思います、開隆堂を推したいです。

**○阿部委員** 私は、両者を比較させていただいたときに、両委員からもお話が上がっていましたが、東京書籍のほうは、非常にこう分量が多くて、どちらかというと、取扱説明書にちょっと近い感じを受けました。取扱説明書っぽいので、わかりやすいという意味ではわかりやすいのかもしれませんが、私は、例えば、ミシンの使い方のページを比較しますと、一つ一つを入れているのが東書ですけれども、要所、要所を入れているのは開隆堂です。

そういうことを考えたときに、開隆堂のほう子どもたちにとってはわかりやすく表現してくれているのではないかという印象を持ちました。

もう一つの観点の中の家庭や地域の人とのかかわりを持つという観点があると思うのですが、そういう意味では、開隆堂には「チャレンジコーナー」というところが幾つか設けられていて、家庭の家族の方と一緒にやってみようとか、地域の方というようなところがあって、そこが観点を大事にしたときに広がりを見せてくれるのではないかという期待感があったので、私も開隆堂がよいと思っております。

**○石井委員** 結論から言うと開隆堂ですけれども、東京書籍も、非常に大きくて、写真も多くて見やすく、今の時代の家庭科の教科書という印象はありました。

開隆堂のほう、まず、「学習のめあて」というものが各単元の最初に載って

いて、なぜ学習するのかということがわかりやすい、課題探究的な学習活動の取り扱いにかかわると思うのですけれども、日常生活で行っていることをなぜやっているのかという意味を問う問いがしっかりとあるということで、子どもたちが日常生活の中で行っていることに対して、課題探究的に取り組んでいくことができるのが開隆堂の教科書ではないかと思いました。

環境に関しても、東書よりも開隆堂のほうがリフューズ、リペアについて取り上げられていて、環境に対しても配慮されている教科書ではないかと思いました。

環境の課題探究的な学習という点でも、開隆堂のほうが家庭だったり地域で役立つことができる、自分で使うことができるという喜びを感じられると思いました。

○長谷川教育長 それぞれ委員からご意見をいただきまして、開隆堂というご意見でございました。

理由につきましては、今、各委員からお話ございましたように、日常生活で行っていることの意味を問うということから、必要感を持って主体的に課題を探究していくような工夫、仕組みがなされているということです。それから、開隆堂は、3Rに加えまして、リフューズやリペアということに、5Rについてまで言及しているということ。それから、「チャレンジコーナー」等を設けて、家庭で家族と一緒に考えたり実践したりできるようになっているということで、東京書籍のほうも非常によい教科書ではあるということだったのですが、今言った観点において、開隆堂のほうが良いのではないかとということでございました。

このような理由から、開隆堂を家庭の教科書として選定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、家庭につきましては、開隆堂を選定いたします。

ここで、小学校を終えまして、入れかえがございますので、5分間の休憩をとりたいと思います。

[ 休 憩 ]

○長谷川教育長 それでは、審議を再開いたします。

次に、高等学校及び中等教育学校(後期課程)用の教科用図書につきまして審議をいたします。

その前に、私から部会長に確認をさせていただきたいことがございます。

特定の組織・団体あるいは会社等から、働きかけや影響力の行使、圧力等はなかったということによろしいでしょうか。

○高等学校部会長 はい。

○長谷川教育長 それでは、高等学校部会から方針のご説明をお願いいたします。

○高等学校部会長 高等学校部会、中等教育学校（後期課程）部会部長の新川高等学校校長の野元と申します。

私から、高等学校部会及び中等教育学校後期課程部会の答申につきましてご説明いたします。

なお、部会名については、高等学校部会、教科用図書については、教科書と省略して説明させていただきます。

高等学校では、義務教育である小学校や中学校が全ての学校で統一の教科書を使用するのは異なり、各学校に設置された保護者委員を必ず含む教科書選定委員会において、その学校に適した全ての教科、科目の教科書を学校ごとに選定しており、それをまとめたものが令和2年度使用希望教科書一覧表になります。

高等学校部会におきましては、各教科に小委員会を持って、この一覧の表を基礎資料として、基本方針に示された調査研究の観点を十分踏まえながら、学校教育目標、教育課程、各教科の指導方針、学習指導上の重点項目との整合性、生徒の能力、適正への適合などについて、教科書編集趣意書及び教科書見本等を参考に、学校ごとに調査研究を行い、このたびの報告書答申といたしました。

それでは、高等学校部会の答申をご覧ください。

表紙の次でございます高校1ページの右下の計の欄をご覧くださいませうでしょうか。

高等学校用教科書目録、令和2年度使用には、803点が掲載されております。

このたび、本市の高等学校、中等教育学校（後期課程）及び山の手養護学校高等部において選定した件数の合計は425点となっておりますが、この目録の中から423点が選定されております。

残りの2点についてであります。大通高校におきましては、海外帰国生徒等枠などで入学した生徒が日本語を学ぶために学校が独自で設定している学校設定教科、表現技術において開設する学校設定科目日本語で使用できる教科書がこの目録にないことから、学校教育法附則第9条の規定による教科書2点が選

定されております。

答申をもう一ページおめくりいただきますが、高校2ページにも資料がございますが、学校別及び教科別の継続選定数及び新規選定数の内訳を示しております。

まず、新規選定についてご説明いたします。

このたび選定いたしました教科書は425点ありますが、各学校において、今年度使用している教科書とは掲載内容が大きく異なる教科書の選定数は②に示した新規（H31採択本と異なる出版社）57点と、③に示した新規（H31と同一出版社）5点のそれぞれを合わせた62点となっております。

次に、各学校において選定候補となっている教科書の新規選定や継続年数については、高校5ページに記載されている旭丘高校の国語の教科書一覧をご覧ください。

国語総合の新規・継続の別の欄には、継4と記載されております。この教科書は、令和2年度使用の教科書として選定候補とされており、今回の採択を経て継続4年目となることを示しております。

続いて、答申の内容についてご説明申し上げます。

各学校では、資料に記載されておりますとおり、学校教育目標、重点目標及び教育課程の編成の方針に基づき、各教科における学習指導上の重点項目を定めております。この重点項目を踏まえて、ふさわしいと考えられる教科書を選定し、その理由を明記しております。

それでは、市立高等学校の全ての生徒が履修している教科、外国語の中のコミュニケーション英語Ⅰという科目を例に具体的にご説明いたします。

コミュニケーション英語Ⅰは、学習指導要領により定められた必履修科目であり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に伝えたりする基礎的な能力を養うことを目標としており、課程、学科にかかわらず、全ての高校生が学習する科目となっております。

それでは、お手元の調査研究報告書答申の高校85ページの上段をご覧ください。

こちらには、大通高校の学校教育目標、重点目標及び教育課程の編成の方針が記載されており、各教科では、これをもとに学習指導上の重点項目を定めております。

上から三つ目の教育課程の編成の方針の3番では、「生徒一人一人の能力に応じたきめ細かな指導により、基礎・基本の定着を図る」とされております。

続いて、高校92ページの下段をご覧ください。

大通高校の外国語の学習上の重点事項をご覧ください。

ここには、「基礎的な事項の定着を図り」や、その下には、「世界の文化や問題に目を向け、自ら考える力を育成する」と記載されており、大通高校では、これらの観点から主要希望教科書を選定しております。

それでは、実際の教科書をご覧いただきたいと思いますので、スクリーンのほうをご覧ください。

こちらの教科書は、東京書籍の「ALL Aboard!」ですが、三つのウォームアップと10のレッスンで構成されており、特に、今ご覧のウォームアップの部分では、アルファベット、教室で使う英語、辞書の使い方など、基礎・基本を重視し、英語が苦手である制度でも抵抗なく学校生活をスタートできるようになっております。

各レッスンの題材においても、日本の漫画や文化が世界にどのように広がり、どのような影響を与えているのかという題材や、女性が学校に通うことが許されない国で立ち上がった1人の少女の話を取り上げた題材など、諸外国の文化や起こっている問題等について考えることができるよう工夫がされており、先ほどの学習指導上の重点項目を踏まえて選定された教科書として選定理由にあるとおり、ふさわしいものとなっております。

次に、答申のほうに戻りますが、答申の高校75ページの上段をご覧ください。

こちらには、専門学科である未来商学科を設置している啓北商業高等学校の学校教育目標等が記載されており、学校教育目標の4では、「国際化や高度情報化に対応する能力の育成」、その二つ下の教育課程の編成の方針の1では、「基礎基本を重視するとともに、実践的な知識や体験的な学習を重んじた特色ある教育課程の研究と編成に努める」とされております。

それでは次に、高校79ページの中段をご覧ください。

こちらは、学習指導上の重点項目に、「基礎的な知識の習得を図り」や、その下には、「生徒の興味・関心、学習意欲を醸成し」「生徒が主体的に学習に取り組めるようにする」とされております。

それでは、同校で選定候補となっている教育出版、「NEW ONE WORLD」についてご説明申し上げます。

それでは、再度、スクリーンのほうをご覧ください。

こちらの教科書も、全部で10のレッスンから構成されておりますが、前半は基礎・基本を重視し、中学校で学習した言語材料を中心に構成されているため、英語が苦手な生徒であっても取り組みやすくなっており、各レッスンの題材についても、「世界を見に出かけよう」や「グローバル化とは何か」など、国際社会に寄与する態度を育成するものや、生命を尊び、自然を大切にする「身近な科学について学ぼう」など、生徒の学習意欲を喚起するものが取り上げられております。

また、各レッスンのまとめとして、題材に関連したコミュニケーション活動を行うことにより、内容の理解を深めるとともに、題材についての興味を広げ、生徒の主体的な学習に結びつけられるよう工夫が施されており、先ほどの学習指導上の重点項目を踏まえて選定された教科書として、選定理由にあるとおりにふさわしいものとなっております。

最後になりますが、高校99ページ上段をご覧ください。

こちらには、開成中等教育学校の学校教育目標等が記載されており、左側の上から三つ目の教育課程の編成の方針の2では、「課題探究的な学習の機会の充実を図り」、また、その下の3では、「コミュニケーションツールとしての英語力を育成する」とされています。

それでは、高校106ページの上段になります。

同校においては、専門学科を設置しているため、教科名は英語、科目名は総合英語となっておりますが、当該教科、科目の教科書が発行されていないため、コミュニケーション英語Ⅰの教科書の使用を希望しております。

こちらには、学習指導上の重点項目に、「実際のコミュニケーションにおいて、状況に応じて適切に活用できる技能を養う」や、「自分の考えや情報などの概要や要点を、適切に受け手に表現したり、話し手や書き手の意図を的確に理解したりすることができる力を養う」とされています。

それでは、同校で選定候補となっている啓林館、「Revised ELEMENT」についてご説明を申し上げます。

再度、スクリーンのほうをご覧ください。

こちらの教科書は、これまでのものとは異なり、各レッスンとも難度の高い単語や英文が使用されるとともに、指示などについても、全て英語でされております。

各レッスンのまとめの部分では、指定された英単語を用いて絵に描かれている状況を英語で説明する活動や、ペアで1枚の共通したポスターを見て、英語で会話を成立させるもの、指定された語句で自己紹介するなどの活動ができる構成となっております。

レッスンの最後には、冒頭で示された写真を見ながら、本文で学んだことを英語で他者に伝える、すなわち、再話活動を行うことによって本文の内容を振り返り、自分の言葉で表現することにより、4技能をバランスよく育むよう構成されております。

全体的に題材を読んで理解するだけでなく、自分はどう思ったのかを表現するとともに、これらの題材を通して自分に何ができるのかを表現し、グローバルに活躍するための発信力や豊かな人間性を育むことができるような構成となっており、同校の学習指導上の重点項目の内容にふさわしい教科書と言えます。

これらの教科書以外にも、旭丘高校、藻岩高校、清田高校、新川高校、平岸高校及び山の手養護学校においては、発行社は異なりますが、各校の教育課程や生徒の実態等にあわせて適切な教科書を選定する状況となっております。

以上、各学校のコミュニケーション英語Ⅰの選定候補となった教科書を例にご説明させていただきましたが、その他の学校及び他の教科科目においても同様に、各学校の教育目標、学習指導上の重点項目等を踏まえて選定された教科書と選定理由を調査し、いずれも各校の生徒にとってふさわしい教科書であることを確認しております。

なお、全体的な傾向といたしましては、全日制課程普通科や中等教育学校（後期課程）では、生徒の能力や進路希望に応じて基礎・基本の定着に加え、高度な内容を含んだものを、全日制課程未来商学科におきましては、基礎・基本の定着を目指し、生徒の興味・関心を喚起するものを選定候補としております。

また、定時制課程の大通高等学校及び山の手養護学校高等部におきましては、生徒が興味・関心を持って学習ができるとともに、基礎・基本の定着が図られるよう、十分配慮されたものとなっております。

以上で、高等学校部会の教科研究報告書（答申）の説明を終えさせていただきます。

**○長谷川教育長** ありがとうございます。

今ほどご説明がありましたように、高等学校及び中等教育学校（後期課程）の教科用図書につきましては、審議会が学校ごとにそれぞれの教育課程に応じた選定の候補が挙げられております。

ただいまのご説明に対しまして、ご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

**○佐藤委員** 各高校において委員会をつくって慎重に審議されたということでございますので、それぞれにつきまして、よいのではないかと思います。

1点教えていただきたいのですが、各高校における委員会の構成は、先ほど保護者委員も含められていると伺いましたけれども、どういった構成になっているのか。例えば、国語だったら、国語科の教員が全員委員になっているのかとか、そういうところをちょっと教えていただければと思います。

**○野元高等学校部会長** それでは、私、新川高等学校の校長ですので、本校の例にとってみたいと思います。

まず、選定委員の中には、校長、副校長、教頭等が入ります。それから、全体を取りまとめる教務部長がおります。それから、それを補助する教務の担当係が

おります。そのほかに、各教科主任ということで、英数国理社というような形の主任が全員そろっています。また、ここにあるように、保護者委員をということで、本校の場合には、1年生、2年生、3年生のPTAの学年委員長に入っていて、お配りしたような選定理由書で各教科のほうから説明して、保護者の方ではわからない部分があると思うのですが、教科書のほうも実際に用意して、こういうことすということ一通り説明を行って、質問があれば受け付けるという形をとっております。

各学校によっては、違っていると思いますけれども、学校によってはPTAの会長が入ってやる学校もございます。

○佐藤委員 そうすると、イメージとしては、選定委員会自体は全教科を見ると、校長先生から各教科主任までの選定委員会という大きいものがあって、各教科ごとに部会のようなものが設置されていないのですね。

○野元高等学校部会長 例えば、私は英語なのですけれども、英語ですと何十種類も教科書があるのですけれども、それで、特に新しい1年生のものについては、いろいろな先生が経験上、いろいろな教科書を見本本を見たりして、これはどうだろうかと英語科部会で検討して、それで、教科書が決まって、それを先ほど言った選定委員会のほうに持ってくるということですから、教科部会の説明をすることが教科主任の立場になっております。

○佐藤委員 その教科部会に関しては、その教科の先生方全員が入っているのですか。

○野元高等学校部会長 入っています。本校で言うと、英語だけで11人いますので、その先生方が特に各学年大体3名、4名ぐらい入っておりますが、その先生方がまず先に選んで、そして、教科部会にかけて、そして、この委員会ということですから、もう何段階も経て、こういった教科書の決定という形になります。

○佐藤委員 それは、もう各高校によって、その組織のされ方というのは異なるものなのでしょうか。

○野元高等学校部会長 私は、今は新川で、この6年、7年で藻岩高校、平岸高校の教頭、副校長を務めてまいりましたけれども、どこの学校もそういうような形でやっていますので、個人が選んでそれを出すということはありません。



○佐藤委員 そうすると、先生方全員がその選定にかかわっていると考えてよろしいですね。

○野元高等学校部会長 はい。

○佐藤委員 わかりました。ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

内容ではないのですが、冒頭にちょっとご説明があった425の選定数のうち、大通高校の関係で、2が日本語の関係で、その辺のくだりがよく理解できなかったのですが、説明いただけますか。

○牧野高等学校担当係長 大通高校につきましては、外国人で日本語の理解が十分ではない生徒に対して、日本語の教科書という形で、学校選定科目を設定しています。そこで日本語を習得するのですが、いわゆる教科書目録の中にそのものがないものですから、通常、民間で出されているような教科書を使用しています。これは、学校教育法附則第9条の規定によって、教科用図書として選定するというもので、目録にない2点を選定しております。

○長谷川教育長 425だけれども、目録に載っているのは423ということですね。

○牧野高等学校担当係長 そのとおりです。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

私からですが、継続で長い年数のものはそんなにはないのでしょうか、わかっているもので、情報自体はアップデートされているものなのでしょうか。

○牧野高等学校担当係長 そうですね。その都度、少しずつマイナーチェンジという形ではありますが、時代とともに、中身は、少しずつではありますが、変わっております。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、高等学校及び中等教育学校（後期課程）用につきましては、候補として挙げられました教科用図書を選定することとしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言する者あり）

○長谷川教育長 それでは、そのようにさせていただきます。

このたびは、どうもありがとうございました。

それでは、最後に、特別支援教育用の教科用図書につきまして審議をいたします。

その前に、私から部会長に確認をさせていただきます。

特定の組織や団体あるいは会社等から、働きかけ、影響力の行使、圧力等はないかということによろしいでしょうか。

○三谷特別支援教育部会長 はい。

○長谷川教育長 それでは、特別支援教育部会の部会長から、調査研究報告書（答申）の説明をお願いいたします。

○三谷特別支援教育部会長 特別支援教育部会部会長の白石小学校校長の三谷と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、特別支援教育部会の答申についてご説明いたします。

最初に、特別支援教育用の教科用図書に関する法令上の規定についてご説明させていただきます。

まず初めに、特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒は、障がいの状態や発達の段階に応じた内容の教科用図書を選び、勉強することができることとなっています。

そのことにつきまして、まず先にご説明いたしますので、スクリーンのほうをご覧ください。

特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒が使用する教科用図書は、まずは、スクリーンの①のように、札幌市が採択した小学校、中学校の文部科学省検定済み教科用図書の各教科の当該学年のものを使用することが基本となっております。しかし、特別支援学校や特別支援学級においては、児童生徒の障がいの状態や発達の段階に応じて、各教科の目標や内容を下の学年のものに変えるなど、一人一人に応じた特別な教育課程を編成することができますので、①の当該学年の教科書を使用することが適当でないときは、設置者の定めるところ

により、他の適切な教科用図書を使用することができます。

そこで、②のように、札幌市が採択した小学校及び中学校の文部科学省検定済み教科用図書の各教科の下の学年のものを使用することができます。

また、各教科の下の学年のものの中で適当なものがない場合には、③のように文部科学省が障がいのある児童生徒用に著作した教科用図書、お手元の星印のついた教科用図書になりますが、こちらを使用することができます。

これは、国語、算数・数学、音楽の3教科のみについて著作されております。

さらに、④に記載してありますとおり、①から③までの中で適当なものがない場合には、各教科の内容と関連が深い絵本や図鑑などのいわゆる一般図書を教科用図書として使用できることになっており、このことが学校教育法附則第9条に規定されております。

このように、幅広い教科用図書の中から児童生徒の障がいの状態や発達の段階に応じて、①から④の段階の中から適当なものを選ぶことができるようになっております。

特別支援教育部会においては、④のいわゆる一般図書についての調査研究を部会で進めてまいりました。

なお、特別支援学校高等部の教科用図書については、これまでご説明した教科用図書に加え、高等学校用教科書目録に掲載されている文部科学省検定済み教科用図書を使用することができますが、特別支援学校高等部の生徒の実態により応じた一般図書を使用する場合には、高等学校と同様に、校長を委員長とする教科書選定委員会を設置し、学校で使用する一般図書の候補を選ぶことができるようになっております。

本年度は、市立札幌みなみの杜高等支援学校から2冊、市立札幌豊明高等支援学校から3冊の一般図書が選定の候補となったため、あわせて調査研究を進めてまいりました。

次に、調査研究の観点でございますが、調査研究の基本方針に基づき、取り扱い内容、内容の程度、配列、分量等、使用上の配慮に加え、昨年度の授業数、図書の発行年度などについても確認をし、本市の特別支援学校や特別支援学級に在籍する児童生徒一人一人が効果的に活用できる図書について、慎重かつ精力的に調査研究を重ねてまいりました。

具体的には、北海道教育委員会が示す学校教育法附則第9条の規定による一般図書採択参考資料を参考にし、そこに掲載された対象となる332冊の一般図書について調査研究を行いました。

さらに、審議会委員から推薦のあった一般図書、採択参考資料の対象となっていない一般図書45冊及び市立高校支援学校から選定の候補としてご報告のあった一般図書5冊を加え、全部で382冊の一般図書について研究調査に当たってお

ります。

これらの審議の結果、令和2年度使用の特別支援教育用教科用図書として、調査研究報告書（答申）の特支1ページから5ページの一覧にございますように、1、文部科学省検定済教科用図書の下学年及び同一内容の拡大教科書、2、文部科学省著作（特別支援学校知的障害者用）、3、一般図書「くまたんのはじめてシリーズ よめるよめるよあいうえお」ほか166冊、4、市立高校支援学校用一般図書5冊、これらを選定の候補といたしました。

なお、調査研究報告書答申の特支1ページから5ページの一覧の右側、新規、継続の中に「新」と記載されている図書は新しく選定の候補とした図書であり、令和2年度は14冊を新しく選定の候補としています。

次に、選定の候補とした一般図書についての説明をいたします。

見本本は1冊ずつしかございませんので、スクリーンにご注目ください。

調査研究報告書には、発達の段階をA、B、Cの三つの段階で示しており、Aの段階は発達のおくれの程度が重度、Bは中度、Cは軽度を意味しており、一般図書においても、児童生徒の障がいの状態や発達の段階に応じて適切な図書を選べるようにしてあります。

Aの段階は、話し言葉がない子や事物への興味・関心が出始め、簡単なものの分別が可能な段階の児童生徒などが対象であり、教師などの話しかけに応じ、表情、身振り、音声で表現することや、教師と一緒に身近なものなどについて、本を通して楽しく学べるものをどの種目においても選定の候補としております。

例えば、算数・数学の「デコボコえほん かずをかぞえよう！」では、1から10までの数について、答えと数字が絵とともに凹凸で表現されており、指でなぞりながら学習することができるよう配慮されています。

国語の「しりとりしましょ！たべものあいうえお」では、見開き2ページの中に食べ物などが三つから五つ程度、しりとりの順で掲載されています。例えば、手巻きずし、シメジ、ジャガイモ、木綿豆腐、フライドポテトというように、しりとり遊びをしながらさまざまな食べ物の名称を覚えることができるよう工夫されています。

Bの段階といたしましては、話し言葉があり、文字の読み書きに興味を持ち始め、事物の簡単な因果関係がわかる段階の児童生徒などが対象であり、図書を通して簡単な言葉でやりとりをしながら学習を進めたり、各種目の基礎的な内容について、興味を持ちながら学習したりすることができる図書を選定の候補としています。

例えば、算数・数学の「ゆっくり学ぶこのための『さんすう』2」では、1対1対応、量概念、数の合成など、基礎的な概念を獲得できるよう配慮されています。

生活の「絵でわかるこどものせいかつずかん① みのまわりのきほん」では、日常生活を送る上で必要なソーシャルスキルのうち、主に家の中での生活習慣に関する動作について、着がえや掃除など20の場面ごと、わかりやすいイラストとともに示されています。

Cの段階といたしましては、簡単な読み書きは可能ですが、検定済み教科用図書では、学習が困難な段階の児童生徒などが対象であり、ある程度の小集団での一斉指導や調べ学習などでより知識を深めることができ、日常的に活用できる内容の図書を選定の候補としています。

例えば、算数・数学の「くらしに役立つ数学」では、電卓の使用方法の学習、買い物での具体的な計算の仕方、1カ月の生活費の学習など、学習して身につけた知識や技能をより実際の生活に生かせる内容になっています。

職業課程の「たのしい職業科 わたしの夢につながる」では、自分の将来や自立及び職業について、15の章に分けて書かれています。具体的には、仕事の種類や仕事をするための必要な力、事務用品、事務機器の使い方、現場実習の準備や実習中に大切になることなどが取り上げられており、将来の就労を見据えて学習を進めることができるようになっています。

以上のように、種目ごとにA、B、Cの段階があり、各段階の中でもさらに児童生徒の障がいの状態や発達段階にきめ細かく応じるために、それぞれに複数冊、選定の候補としております。

次に、市立高校支援学校用一般図書について、各校1冊ずつご説明いたします。

みなみの杜高等支援学校では、情報科で、「見てわかる情報モラル 第3版」を選定の候補としています。

この図書では、基礎的・基本的な情報モラルに関する事項を取り上げ、生徒が陥りやすい事例について、学習することができます。具体的な内容としては、生徒が持っているスマートフォンのマナーや基礎的・基本的な情報モラルに関する事項、生徒が陥りやすいSNSのトラブル、このように具体的な事例が4コマ漫画や予防と対策などの項目ごとにわけてわかりやすく解説されております。

豊明高等支援学校では、職業科で、「ひとりだちするための進路学習」を選定の候補としています。

この図書では、就労に向けた基礎的な知識や技能を身につけることができるよう、「働くこと」や「働くために」、「社会人になる」など六つの章で構成されています。具体的な内容としては、働く人たち、人との付き合い、履歴書の書き方など、就労に向けた幅広い内容について、イラストなどを使いながらわかりやすくまとめられています。

説明は以上ですが、その他の図書につきましても、同様に吟味をした結果、本

市の特別支援学校及び特別支援学級に在籍する児童生徒一人一人が活用していく上で有用性のある図書であることを確信しております。

以上、お手元の調査研究報告書のとおり、部会としてまとめましたことをご報告申し上げ、私からの説明を終わらせていただきます。

○長谷川教育長 ありがとうございます。

ただいまご説明ございましたように、特別支援教育用については、児童生徒の障がいの種類や程度に応じて一人一人に適した教科書を研究するという観点から、各種目等幅広く選定の候補が挙げられております。

それらにつきまして、各委員からご質問、ご意見等がございましたらお願いいたします。

いかがでしょうか。

○佐藤委員 以前も伺ったことかもしれませんが、一般図書が、例えば、新規で候補に上がってくるプロセスというのはどういう形で推薦されるのですか。

○北原特別支援教育担当係長 私からお答えしたいと思います。

北海道教育委員会の採択参考資料に載っていない一般図書についてですが、こちらにつきましては、審議委員会の委員がこれまでの経験をもとに、札幌市が採択している一般図書の中で足りない、不足している、そのあたりについて検討を行って、委員から推薦をいただきます。

この推薦に当たっては、北海道教育委員会採択参考資料に載っている観点、取り扱い内容の程度、配列、分量等について、使用上の配慮点を踏まえた上で推薦を受けるという形で行っております。

さらに、その後、このような形で推薦いただくのですが、それをすぐ取り入れるのではなくて、それを北海道の参考資料の本と同様に検討するかどうかということについて、まず、検討を行います。その段階で、これはふさわしくないということで、今回落ちた本もございます。一旦、そこで、まず、検討を行うことになりましたら、また、改めて調査研究の観点に基づいて、調査研究を行い、検討を進めるということで、検討は2段階に分けて行っております。これによって公正性・透明性を担保しながら、採択参考資料に載っていない教科書についても採択を行うことができるというふうに考えております。

○佐藤委員 例年の平均的なところでよいのですけれども、大体何冊ぐらい上がってきて、そのうち、何冊ぐらいが候補になっているのでしょうか。

○北原特別支援教育担当係長 新たに一般図書として候補になるのは、十数冊が委員から推薦がありまして、そのうち、10冊前後程度ですね。

実は、毎年、昨年も採択参考資料に載っていない本というのは採択しておりますので、そこも含めると四十数冊が採択参考書に載っていない一般図書を採択している形になりますが、委員から推薦が上がってくるのは十数冊程度という状況がございます。

○佐藤委員 わかりました。ありがとうございます。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

ちょっと私から細かい質問ですけれども、特支6ページ、国1ですけれども、発達段階のAということで、言葉の種類が聴覚、知的、情緒、肢体、病気、全部一緒になっているのですけれども、これは通常、こういう障がいの種類が全部一緒で発達段階でわかるようなことなのですか。札幌だけではなくて、ほかのところも全部一緒ということですか。

○北原特別支援教育担当係長 私からご説明させていただきます。

こちらは、北海道教育委員会の採択参考資料の障がいの種類がこちらになっておりまして、基本的には広くどの障がい種に応じても対応することができるという本を選んでおります。

なるべくどの障がい種の方もできるような形ということで、広く使えるものを中心に選んでいる状態で、今回も、全ての本について、全ての障がい種が対応しているという状況になっているところです。

○長谷川教育長 一般的には考えづらいですけれども、北海道ではこういう形でやっているのですね。

○北原特別支援教育担当係長 そうです。

○長谷川教育長 ほかにいかがでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 特別支援教育用につきましては、ただいま候補として挙がりましたものを選定することでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長谷川教育長 それでは、そのようにいたします。

長時間、どうもありがとうございました。

これまでの審議によりまして、小学校用の教科用図書、高等学校、中等教育学校（後期課程）用教科用図書並びに特別支援教育用教科用図書の選定が終了いたしました。

小学校用教科用図書を選定した理由につきましては、これまでの審議を踏まえまして、事務局でまとめていただき、次回、8月9日の教育委員会会議で議案として提出させていただきたいと思っております。

また、7月24日の第14回教育委員会会議で事務局からの説明でも取り上げておりましたけれども、中学校用、そして、中等教育学校の前期課程用の教科用図書も含めまして、次回、令和2年度に市立学校で使用する教科書を採択いたしますので、よろしくお願ひしたいと思っております。

そのほか、各委員から何かありますか。

(「なし」と発言する者あり)

## 【閉 会】

○長谷川教育長 それでは、以上で令和元年第16回教育委員会会議を終了いたします。

長時間、どうもありがとうございました。

以 上